

# 平成14年度事業報告書

〔 平成14年4月 1日から  
平成15年3月31日まで 〕

## 目 次

I.概 要 .....	2
II.理 事 会 .....	3
III.評議員会 .....	6
IV.主要事業活動 .....	8
1.産業技術人材育成事 .....	9
(1)経営管理研修	
(2)先進技術者企業研修	
(3)品質管理・工業標準化研修	
(4)技術者専門研修	
(5) 理工系大学院生（ウインターインスティテュート）	
2. 韓国産業生産性向上協力事業 .....	14
(1)生産性向上モデル企業育成事業	
(2)専門技術者派遣	
(3)生産性向上短期コンサルティング	
3. 産業技術交流事 .....	17
(1)産業技術交流促進ミッション	
(3)官民若手交流事業支援	
(4)地域間各種交流事業支援	
① 日韓部品・素材産業協議体／合同会議	
② 九州・韓国経済交流会議関連事業への参加と支援	
③ 東北・韓国産業交流ミッションへの支援	
4. 調査広報事業 .....	22
(1)産業国際競争力向上セミナー	
(2)各種委託調査	
(3)各種広報事業	
a.両国財団シンポジウム（調査報告検討会）	
b.両国財団広報事業	
V. 日韓両財団「連絡協議会」及び「連絡協議会幹事会」の開催 .....	26
VI. 事務局人事 .....	28
VII. 財団日誌 .....	29

## I. 概 要

当財団が設立後、事業を開始して以来 **10** 年が経過した。これまで日本政府、及び関係経済団体のご協力と日本側企業の多大のご支援により、年毎に事業の成果が上がってきたと思われる。この **10** 年間で当財団の研修・研究事業、セミナー等を受講した人数は約 **3,700** 名、また生産性向上協力事業等を実施した企業数は約 **300** 社になる。

財団活動に対しては、年を重ねる毎に、改めてその役割が認識され、今後の活動も期待されている。日韓両国政府や、関係者から良い評価を頂いて来たが、また事業に参加した韓国企業の社員や研修生からも、講師・専門家の助言や、研修内容が大変有益であったと感謝されている。

これまでも度々言われて来たことであるが、韓国経済を下支えとなるべきいわゆる部品・素材産業の成長が未だ十分でないために、資本財、部品等の供給の大半を日本や米国に依存せざるを得ない経済環境と産業構造が大きく変わっていないため、対日貿易赤字は依然として減少しておらず、引続き韓国の中堅・中小製造業への更なる育成・強化が必要とされている。

平成 **14** 年度は、基本財産の運用益の外に、政府からの拠出金 **4.34** 億円（外務省 **1.96** 億円、経済産業省 **2.38** 億円）を得て事業を実施した。

1. 当年度中、理事会 **3** 回、評議員会 **1** 回を開催し、財団運営の重要事項について審議、議決を行った。
2. 平成 **13** 年度第 **3** 回理事会で承認された平成 **14** 年度事業計画に従い下記事業を実施した。
 

(1)産業技術人材育成事業	……………	5 事業
(2)韓国産業生産性向上協力事業	……………	3 事業
(3)産業技術交流事業	……………	4 事業
(4)調査広報事業	……………	4 事業
3. 日韓両財団の共同事業
 

先進技術者企業研修、技術者専門研修〔KITA〕、専門技術者派遣、生産性向上短期コンサルティング、産業技術交流促進ミッション受入れ、官民若手(オピニオンリーダー)交流、産業国際競争力向上セミナー、両国財団シンポジウム(調査報告検討会)の 8 事業を実施した。
4. (1)日韓両財団第 **9** 回連絡協議会を平成 **14** 年(2002 年)4 月 **12** 日広島市にて開催した。  
 (2)日韓両財団第 **10** 回連絡協議会幹事会を平成 **14** 年(2002 年)11 月 **5** 日東京にて開催した。

以上が、平成 **14** 年度の概要である。

## Ⅱ. 理 事 会

今年度は3回の理事会を開催、いずれも瀬戸雄三理事長（アサヒビール株式会社相談役）の議長のもとに議題を審議し、表決が必要な事項については、すべて原案どおり異議なく可決承認された。各理事会の概要は以下のとおりである。

### 1. 平成14年度第1回理事会

平成14年6月17日（月） 午後3時00分～3時30分

経団連会館 11階（大和）

出席者 25名（内訳：理事本人 5名、書面表決 9名、表決委任 11名）

欠席者 3名

〔理事総数 28名〕

#### 〔議 題〕

##### 決議事項

第1号議案 平成13年度事業報告（案）承認の件

第2号議案 平成13年度収支決算報告（案）承認の件

第3号議案 任期満了等に伴う評議員選出承認の件

次期の評議員は次のとおり

（敬称略、氏名五十音順、役職は平成14年6月17日現在）

荒蒔康一郎	（再任）	キリンビール株式会社代表取締役社長
井口 武雄	（再任）	三井住友海上火災保険株式会社取締役会長
臼井 英實	（再任）	株式会社ロッテ常務取締役
北岡 隆	（再任）	三菱電機株式会社常任相談役
熊谷 直博	（再任）	財団法人日韓文化交流基金理事長
高 捷雄	（再任）	丸紅株式会社副社長
小島 幹生	（再任）	財団法人企業活力研究所理事長
小林陽太郎	（再任）	富士ゼロックス株式会社代表取締役会長
後藤 康男	（再任）	安田火災海上保険株式会社特別顧問
佐伯 尚孝	（再任）	株式会社UFJ銀行特別顧問
坂本 卓	（再任）	日鉱金属株式会社代表取締役会長
下出 道雄	（再任）	社団法人日韓経済協会常務理事
関澤 義	（再任）	富士通株式会社取締役会長
辻 明弘	（再任）	株式会社トーマン相談役
富岡征一郎	（再任）	鹿島建設株式会社常務取締役
宮崎 章	（再任）	兼松株式会社取締役副社長

村上 弘芳	(再任)	日揮株式会社監査役
森下 洋一	(再任)	松下電器産業株式会社代表取締役会長
横川 浩	(再任)	日本貿易振興会理事
渡邊 宏	(再任)	東京瓦斯株式会社相談役
伊藤 源嗣	(新任)	石川島播磨重工業株式会社代表取締役社長
數土 文夫	(新任)	川崎製鉄株式会社取締役社長
西川 章	(新任)	三菱マテリアル株式会社取締役社長
野村 哲也	(新任)	清水建設株式会社代表取締役社長
安武 史郎	(新任)	日商岩井株式会社取締役社長
以上	25名	

第4号議案 寄附行為の一部変更承認の件

寄附行為第16条(1)「理事25人以上35以内」を「理事15人以上25人以内」とし、第31条「本財団に、評議員25人以上50人以内を置く。」を「本財団に、評議員15人以上25人以内を置く」とする。

報告事項

①平成14年度事業計画変更に伴う予算補正の件

## 2. 平成14年度第2回理事会

平成14年6月17日(月) 午後3時45分～4時00分

経団連会館 11階 (大和)

出席者 25名 (内訳:理事本人 6名、書面表決 9名、表決委任 10名)

[理事総数 25名]

[議題]

決議事項

第1号議案 理事長、副理事長、専務理事、常務理事互選(案)の件

互選の結果は次のとおり

(敬称略、氏名五十音順、役職は平成14年6月17日現在)

理事長

瀬戸 雄三 アサヒビール株式会社取締役相談役

副理事長

渡里杉一郎 株式会社東芝相談役

前田勝之助 東レ株式会社代表取締役会長

秋山 富一 住友商事株式会社相談役

亀井 俊郎	川崎重工業株式会社相談役
鈴木 政志	野村證券株式会社常任顧問
張 富士夫	トヨタ自動車株式会社取締役社長
佐々木幹夫	三菱商事株式会社取締役社長
専務理事	
成田 洋助	財団法人日韓産業技術協力財団
常務理事	
山崎 弘	財団法人日韓産業技術協力財団

(任期は平成14年6月16日から平成16年6月15日までの2年間)

### 3.平成14年度第3回理事会

平成15年3月28日(金) 午後3時00分～3時30分

財団法人日韓産業技術協力財団 会議室

出席者 25名 (内訳:理事本人 5名、書面表決 11名、表決委任 9名)

[理事総数 25名]

[議 題]

決議事項

第1号議案 平成15年度暫定予算承認の件

寄附行為第11条により、予算成立の日まで前年度の予算に準じ収入支出することを承認した。

以 上

### Ⅲ. 評 議 員 会

今年度は1回の評議員会を開催、互選の結果、いずれも村上弘芳評議員が議長となって議題を審議し、表決が必要な事項については、すべて原案どおり異議なく承認された。各評議員会の概要は以下のとおりである。

#### 1. 平成14年度第1回評議員会

平成14年6月17日(木) 午後3時30分～3時45分

経団連会館 11階 (大和)

出席者 24名 (内訳：評議員本人 3名、書面表決11名、表決委任 10名)

欠席者 1名

[評議員総数 25名]

[議 題]

決議事項

第1号議案 任期満了等に伴う理事・監事選任承認の件

次期の理事及び監事は次のとおり

(敬称略、氏名五十音順、役職は平成14年6月17日現在)

理事	藤村 正哉	(再任)	三菱マテリアル株式会社相談役
	瀬戸 雄三	(再任)	アサヒビール株式会社取締役相談役
	渡里杉一郎	(再任)	株式会社東芝相談役
	前田勝之助	(再任)	東レ株式会社代表取締役会長
	秋山 富一	(再任)	住友商事株式会社相談役
	亀井 俊郎	(再任)	川崎重工業株式会社相談役
	鈴木 政志	(再任)	野村證券株式会社常任顧問
	張 富士夫	(再任)	トヨタ自動車株式会社取締役社長
	成田 洋助	(再任)	財団法人日韓産業技術協力財団
	椎名 武雄	(再任)	日本アイ・ビー・エム株式会社最高顧問
	篠原 巖	(再任)	日本電気株式会社執行役員専務
	庄山 悦彦	(再任)	株式会社日立製作所取締役社長
	根本 二郎	(再任)	日本郵船株式会社代表取締役会長
	弓倉 礼一	(再任)	旭化成工業株式会社常任相談役
	米倉 功	(再任)	伊藤忠商事株式会社特別顧問

奥田 碩	(新任)	社団法人日本経済団体連合会会長 トヨタ自動車株式会社取締役会長
山口 信夫	(新任)	日本商工会議所会頭 旭化成株式会社代表取締役会長
木村 伸一	(新任)	三井物産株式会社顧問
佐々木幹夫	(新任)	三菱商事株式会社取締役社長
那須 翔	(新任)	東京電力株式会社相談役
服部 民夫	(新任)	東京大学大学院教授
山田 伸顕	(新任)	財団法人大田区産業振興協会専務理事
和田 龍幸	(新任)	社団法人日本経済団体連合会事務総長
御巫 清美	(新任)	社団法人日韓経済協会専務理事
山崎 弘	(新任)	財団法人日韓産業技術協力財団
以 上	25名	

監事	高梨 圭介	(再任)	社団法人日本貿易会専務理事
	齋藤 宏	(新任)	株式会社みずほコーポレート銀行頭取
	以 上	2名	

(任期は平成14年6月16日から平成16年6月15日までの2年間)

#### 第2号議案 寄附行為の一部変更承認の件

寄附行為第16条(1)「理事25人以上35以内」を「理事15人以上25人以内」とし、第31条「本財団に、評議員25人以上50人以内を置く。」を「本財団に、評議員15人以上25人以内を置く」とする。

#### 報告事項

- ①平成13年度事業報告書について
- ②平成13年度収支決算報告書について
- ③平成14年度事業計画変更に伴う予算補正の件

以 上

## IV. 主要事業活動

平成14年3月25日の理事会及び評議員会で承認された事業計画に従い下記事業を実施した。(主な事業の詳細は7頁以下参照)

【共同】：韓日財団との共同事業

1. 産業技術人材育成事業
  - (1)経営管理者研修
  - (2)先進技術者企業研修 【共同】
  - (3)品質管理・工業標準化研修
  - (4)技術者専門研修 【共同】
  - (5)理工系大学院生（ウインターインスティテュート）
  
2. 韓国産業生産性向上協力事業
  - (1)生産性向上モデル企業育成事業
  - (2)専門技術者派遣 【共同】
  - (3)生産性向上短期コンサルティング 【共同】
  
3. 産業技術交流事業
  - (1)産業技術交流促進ミッション 【共同】
  - (3)官民若手交流事業支援 【共同】
  - (4)地域間各種交流事業支援
    - ①日韓部品・素材産業協議体／合同会議
    - ②九州・韓国経済交流会議関連事業への参加と支援
    - ③東北・韓国産業交流ミッションへの支援
  
4. 調査広報事業
  - (1)産業国際競争力向上セミナー 【共同】
  - (2)各種委託調査
  - (3)各種広報事業
    - a. 両国財団シンポジウム（調査報告検討会） 【共同】
    - b. 両国財団広報事業

## 1. 産業技術人材育成事業

事業名	(1) 経営管理研修
事業内容	韓国中堅・中小企業の間管理職を日本に招聘し、専門家の講義及び関連の工場見学を行うことにより、中間管理職として必要な企業管理技術全般の研修を行う。
実施状況	<p>1. 研修期間      第一班：2002年9月30日～10月12日（10名参加）      第二班：2002年11月18日～30日（7名参加）</p> <p>2. 研修内容      (1) 講義      ①「日本の中小製造業の現状と空洞化対策」      ②「勝ち残る為の企業、職場づくり」      ③「企業生き残り戦略—短納期、在庫最小のテクニック」      ④「リーダーシップ：如何に人を造り、育てるか」      (2) 工場見学      ① (株) 湯川鉄工所      ② 大器機械 (株)      ③ (株) 吉岡精工      ④ 横浜金属 (株)      ⑤ 高周波精密 (株)      ⑥ トーレック (株)</p> <p>3. 研修生派遣企業      &lt;会社名&gt; &lt;主要製品&gt;      (1) 大起産業 (株) 自動車用部品、ドアロック、空気清浄機      (2) 大林窯業 (株) 衛生陶器      (3) 大成精機 (株) 自動車用スロットルボディ、サージタンク      (4) (株) 三信 各種鍛造バルブ、鋳造バルブ      (5) (株) 3Z プラゲバルブ、コントロールバルブ      (6) (株) 新興機工 自動車用パッキング、ドアシステム、ドアロック      (7) (株) S.C.D 電子レンジ、冷蔵庫用タイマースイッチ      (8) (株) NK CNG シリンダ、ガスシリンダ、Y-TON シリンダ      (9) (株) 二元 Solutech カムシャフト、フライホイール、ロッカーアーム      (10) (株) TPCMechatronics エアシリンダ、電磁弁、空圧補助機器      (11) 江南 F I L T E R (株) オイルフィルター、空気清浄機、電気集塵機      (12) 金昌 (株) 自動車部品、ドアインパクトバー、フロントクッション      (13) 大然金属工業 (株) 自動車部品、車体塑性部品      (14) 自康産業 (株) 洗濯機、エアコン用射出成形品      (15) 泰洲実業 (株) 自動車部品、ディスク、ハブ、ドラム      (16) F I R S T E C (株) 射撃統制設備、誘導駆動機器、電装品      (17) 韓国 SMC 工 庄 (株) 空圧シリンダ、空圧機器</p> <p>4. 成果等      (1) 日本の中小製造業が、深刻な経済不況、産業空洞化に立ち向かい、独自の経営理念、技術を生かして成長しているようすを学んだ。      (2) 日本の文化・習慣を肌で感じ取り、又、多くの日本人と接し、日本に対する理解を深めた。</p>

## 1. 産業技術人材育成事業

事業名	(2) 先進技術者企業研修 <span style="float: right;">【共同事業】</span>																																																																																														
事業内容	韓国企業の中堅技術者が、日本の企業において、技術又は経営上の課題をテーマにして、日本の企業と共同で技術研修を行う。																																																																																														
実施状況	<p>1. 研修期間 2002年8月12日～11月2日（83日間）</p> <p>2. 研修内容            (1) 日本語研修            企業研修及び研修中の日常生活の円滑化を図るために行うもので、日本入国前、5週間、日本入国後、3週間実施。又、研修中、日本の文化・習慣等についても研修を実施。            (2) 企業研修            各受け入れ企業において、約2ヶ月間実施。派遣及び受け入れ企業の双方にメリットが出るようなテーマを選定して研修を行った。</p> <p>3. 研修生派遣企業（43社）及び受け入れ企業（39社）</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; width: 25%;">&lt;派遣企業&gt;</th> <th style="text-align: left; width: 25%;">&lt;受け入れ企業&gt;</th> <th style="text-align: left; width: 25%;">&lt;派遣企業&gt;</th> <th style="text-align: left; width: 25%;">&lt;受け入れ企業&gt;</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>(1) 韓国教育放送公社</td><td>㈱ビジョンプランニング</td><td>(23) ㈱又新化学</td><td>三幅工業㈱</td></tr> <tr><td>(2) MUSIC NETWORK㈱</td><td>㈱ビジョンプランニング</td><td>(24) RINNAI KOREA㈱</td><td>リンナイ精機㈱</td></tr> <tr><td>(3) 西部農産</td><td>㈱且千花</td><td>(25) ㈱韓一MEC</td><td>㈱山武</td></tr> <tr><td>(4) 新星精密産業社</td><td>大垣精工㈱</td><td>(26) ㈱三進技研</td><td>和興産業㈱</td></tr> <tr><td>(5) 亜洲 YAMAICHI 電機工業㈱</td><td>大垣精工㈱</td><td>(27) ㈱協星社</td><td>マイクロテック・ラボラトリー㈱</td></tr> <tr><td>(6) ㈱有珍 S-TECH</td><td>大垣精工㈱</td><td>(28) ㈱SEOUL PLANET</td><td>岡野商事㈱</td></tr> <tr><td>(7) ㈱有珍精工</td><td>大垣精工㈱</td><td>(29) ㈱G&amp;G エンターテイメント</td><td>㈱ジーアンドジーディレクション</td></tr> <tr><td>(8) 太陽機電</td><td>㈱カンノ製作所</td><td>(30) 石岩窯業社</td><td>千葉セラミック工業㈱</td></tr> <tr><td>(9) 韓国 ALPS㈱</td><td>アルプス電気㈱</td><td>(31) 光明産業㈱</td><td>秋田工業㈱</td></tr> <tr><td>(10) ソウル東光㈱</td><td>東光㈱</td><td>(32) FLUTEK㈱</td><td>川崎重工業㈱</td></tr> <tr><td>(11) 愛敬化学㈱</td><td>大日本インキ化学工業㈱</td><td>(33) NETRO 21</td><td>㈱テックノデザイン</td></tr> <tr><td>(12) 韓国山武㈱</td><td>㈱山武</td><td>(34) 三和電子工業㈱</td><td>日立金属㈱</td></tr> <tr><td>(13) 東西石油化学㈱</td><td>旭化成㈱</td><td>(35) ㈱プリマテック</td><td>テック化成 (株)</td></tr> <tr><td>(14) 韓国安川電機㈱</td><td>安川電機㈱</td><td>(36) 中央M&amp;B㈱</td><td>㈱韓聯社</td></tr> <tr><td>(15) 錦湖三井化学㈱</td><td>三井武田ケミカル㈱</td><td>(37) ANIK</td><td>(有)イマジシ</td></tr> <tr><td>(16) 錦湖 POLYCHEM㈱</td><td>JSR㈱</td><td>(38) 世元化成</td><td>㈱ジーアールビー・ジャパン</td></tr> <tr><td>(17) 三永インク&amp;ペイント製造㈱</td><td>東洋インキ製造㈱</td><td>(39) ㈱大河 MANTECH</td><td>㈱セイシン企業</td></tr> <tr><td>(18) 韓国 MITUTOYO㈱</td><td>㈱ミットヨ</td><td>(40) I-S HIGH TEC㈱</td><td>㈱日新精工</td></tr> <tr><td>(19) 韓国 HISCO㈱</td><td>㈱日立ハイテクノロジーズ</td><td>(41) A-TECH.SOLUTION㈱</td><td>㈱ウチダ</td></tr> <tr><td>(20) 日華 KOREA㈱</td><td>日華化学㈱</td><td>(42) 宰膽 SOLUTECH㈱</td><td>京セラケミカル㈱</td></tr> <tr><td>(21) LG 日立(株)</td><td>㈱日立製作所</td><td>(43) JAVE エンターテイメント</td><td>㈱アートユニオン</td></tr> <tr><td>(22) 新和技研(株)</td><td>㈱松島機械研究所</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> <p>4. 成果等            (1) 本年度も、韓国側の要望により受け入れ研修生を43名にて実施した。財団事業のPRが徐々に浸透して来ており、派遣会社の業種に更に広がりが出てきた。            (2) 各受け入れ企業の研修スケジュールは、研修中、研修生が常に多くの日本人、又、日本の文化・習慣等に接触出来るよう配慮したため、研修生の日本に対する理解が深まった。</p>			<派遣企業>	<受け入れ企業>	<派遣企業>	<受け入れ企業>	(1) 韓国教育放送公社	㈱ビジョンプランニング	(23) ㈱又新化学	三幅工業㈱	(2) MUSIC NETWORK㈱	㈱ビジョンプランニング	(24) RINNAI KOREA㈱	リンナイ精機㈱	(3) 西部農産	㈱且千花	(25) ㈱韓一MEC	㈱山武	(4) 新星精密産業社	大垣精工㈱	(26) ㈱三進技研	和興産業㈱	(5) 亜洲 YAMAICHI 電機工業㈱	大垣精工㈱	(27) ㈱協星社	マイクロテック・ラボラトリー㈱	(6) ㈱有珍 S-TECH	大垣精工㈱	(28) ㈱SEOUL PLANET	岡野商事㈱	(7) ㈱有珍精工	大垣精工㈱	(29) ㈱G&G エンターテイメント	㈱ジーアンドジーディレクション	(8) 太陽機電	㈱カンノ製作所	(30) 石岩窯業社	千葉セラミック工業㈱	(9) 韓国 ALPS㈱	アルプス電気㈱	(31) 光明産業㈱	秋田工業㈱	(10) ソウル東光㈱	東光㈱	(32) FLUTEK㈱	川崎重工業㈱	(11) 愛敬化学㈱	大日本インキ化学工業㈱	(33) NETRO 21	㈱テックノデザイン	(12) 韓国山武㈱	㈱山武	(34) 三和電子工業㈱	日立金属㈱	(13) 東西石油化学㈱	旭化成㈱	(35) ㈱プリマテック	テック化成 (株)	(14) 韓国安川電機㈱	安川電機㈱	(36) 中央M&B㈱	㈱韓聯社	(15) 錦湖三井化学㈱	三井武田ケミカル㈱	(37) ANIK	(有)イマジシ	(16) 錦湖 POLYCHEM㈱	JSR㈱	(38) 世元化成	㈱ジーアールビー・ジャパン	(17) 三永インク&ペイント製造㈱	東洋インキ製造㈱	(39) ㈱大河 MANTECH	㈱セイシン企業	(18) 韓国 MITUTOYO㈱	㈱ミットヨ	(40) I-S HIGH TEC㈱	㈱日新精工	(19) 韓国 HISCO㈱	㈱日立ハイテクノロジーズ	(41) A-TECH.SOLUTION㈱	㈱ウチダ	(20) 日華 KOREA㈱	日華化学㈱	(42) 宰膽 SOLUTECH㈱	京セラケミカル㈱	(21) LG 日立(株)	㈱日立製作所	(43) JAVE エンターテイメント	㈱アートユニオン	(22) 新和技研(株)	㈱松島機械研究所		
<派遣企業>	<受け入れ企業>	<派遣企業>	<受け入れ企業>																																																																																												
(1) 韓国教育放送公社	㈱ビジョンプランニング	(23) ㈱又新化学	三幅工業㈱																																																																																												
(2) MUSIC NETWORK㈱	㈱ビジョンプランニング	(24) RINNAI KOREA㈱	リンナイ精機㈱																																																																																												
(3) 西部農産	㈱且千花	(25) ㈱韓一MEC	㈱山武																																																																																												
(4) 新星精密産業社	大垣精工㈱	(26) ㈱三進技研	和興産業㈱																																																																																												
(5) 亜洲 YAMAICHI 電機工業㈱	大垣精工㈱	(27) ㈱協星社	マイクロテック・ラボラトリー㈱																																																																																												
(6) ㈱有珍 S-TECH	大垣精工㈱	(28) ㈱SEOUL PLANET	岡野商事㈱																																																																																												
(7) ㈱有珍精工	大垣精工㈱	(29) ㈱G&G エンターテイメント	㈱ジーアンドジーディレクション																																																																																												
(8) 太陽機電	㈱カンノ製作所	(30) 石岩窯業社	千葉セラミック工業㈱																																																																																												
(9) 韓国 ALPS㈱	アルプス電気㈱	(31) 光明産業㈱	秋田工業㈱																																																																																												
(10) ソウル東光㈱	東光㈱	(32) FLUTEK㈱	川崎重工業㈱																																																																																												
(11) 愛敬化学㈱	大日本インキ化学工業㈱	(33) NETRO 21	㈱テックノデザイン																																																																																												
(12) 韓国山武㈱	㈱山武	(34) 三和電子工業㈱	日立金属㈱																																																																																												
(13) 東西石油化学㈱	旭化成㈱	(35) ㈱プリマテック	テック化成 (株)																																																																																												
(14) 韓国安川電機㈱	安川電機㈱	(36) 中央M&B㈱	㈱韓聯社																																																																																												
(15) 錦湖三井化学㈱	三井武田ケミカル㈱	(37) ANIK	(有)イマジシ																																																																																												
(16) 錦湖 POLYCHEM㈱	JSR㈱	(38) 世元化成	㈱ジーアールビー・ジャパン																																																																																												
(17) 三永インク&ペイント製造㈱	東洋インキ製造㈱	(39) ㈱大河 MANTECH	㈱セイシン企業																																																																																												
(18) 韓国 MITUTOYO㈱	㈱ミットヨ	(40) I-S HIGH TEC㈱	㈱日新精工																																																																																												
(19) 韓国 HISCO㈱	㈱日立ハイテクノロジーズ	(41) A-TECH.SOLUTION㈱	㈱ウチダ																																																																																												
(20) 日華 KOREA㈱	日華化学㈱	(42) 宰膽 SOLUTECH㈱	京セラケミカル㈱																																																																																												
(21) LG 日立(株)	㈱日立製作所	(43) JAVE エンターテイメント	㈱アートユニオン																																																																																												
(22) 新和技研(株)	㈱松島機械研究所																																																																																														

## 1. 産業技術人材育成事業

事業名	(3) 品質管理・工業標準化研修																																																						
事業内容	<p>韓国中堅・中小企業の中堅技術者を受入れ、品質管理・工業標準化に関する研修を実施。</p> <p>(1) 対象：中堅・中小企業の中堅技術者 20名程度</p> <p>(2) 期間：3週間</p> <p>(3) 内容：座学を主体に基礎から実際編成体系付けた講習を実施</p> <p>①日本のTQM・産業構造                      ②IE、QFD、品質保証、ISO9000</p> <p>③原価管理、方針管理、日常管理            ④グループディスカッション等</p>																																																						
実施状況	<p>1. 期間 研修生18名(2名直前キャンセル)が2002年11月17日(日)来日、12月7日(土)帰国する迄の3週間、大磯プリンスホテル(神奈川県中郡大磯町)において研修。</p> <p>2. 研修生(18名)</p> <table border="0"> <tr> <td>・江南化成(株)</td> <td>次長</td> <td>45才</td> <td>・Next Instrument</td> <td>次長</td> <td>38才</td> </tr> <tr> <td>・茶林特装(株)</td> <td>課長</td> <td>34</td> <td>・DASAN C&amp;I</td> <td>課長</td> <td>34</td> </tr> <tr> <td>・東海産業(株)</td> <td>課長</td> <td>36</td> <td>・(株)Motonic</td> <td>次長</td> <td>41</td> </tr> <tr> <td>・宝星 POWERTEC(株)</td> <td>課長</td> <td>40</td> <td>・(株)奉信</td> <td>課長</td> <td>35</td> </tr> <tr> <td>・三永 Cable(株)</td> <td>課長</td> <td>35</td> <td>・(株)三豪特殊</td> <td>課長</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>・(株)CENTRAL</td> <td>次長</td> <td>41</td> <td>・Waters Co.,Ltd</td> <td>課長</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>・TURBOSEAL co.,ltd</td> <td>Team長</td> <td>35</td> <td>・韓国熱処理</td> <td>課長</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>・NARA Corporation</td> <td>課長</td> <td>40</td> <td>・韓国 SMC 空圧(株)</td> <td>課長</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>・(株)韓進 AirTech</td> <td>課長</td> <td>36</td> <td>・Heshbon(株)</td> <td>課長</td> <td>31</td> </tr> </table> <p>3. 研修内容</p> <p>(1) 講義科目： 日本の産業構造、日本の人事・労務管理、IEの基礎/演習、統計基礎、日常管理、方針管理、QFDの基礎、新QC七つ道具、職場の活性化とQCC、製造物責任制度、ISO 9000、開発・製造・市場の品質保証、職場の改善、他グループディスカッション等</p> <p>(2) 工場見学：①アサヒビール(株) 神奈川工場(平成14年に竣工した最新鋭工場) ②(株)オーバル 本社工場(各種流量計ほか製造)</p> <p>(3) 日本文化研修：①東京見学1日、②鎌倉見学半日、③横浜見学半日、 ④箱根研修旅行1泊2日、⑤日本語講座1日</p> <p>4. 特記</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主任講師は例年通り・日本科学技術連盟嘱託の高須久先生に委嘱した。日程の作成からご指導を得、また昨年度の評価書を参考にしながら準備を進め、講義と見学のバランスが取れたカリキュラムを作成し、昨年以上のものを準備することが出来た。</li> <li>通訳に大阪経済法科大学客員研究員の金正一氏に依頼したが、研修生の夜遅くまでの先生への質問攻めにもつき合い、研修生からは最大の評価を得ていた。</li> <li>今年の研修生は非常にレベルが高い(初日の品質管理演習)ことが判明し、その後の各講義でも、かなりの理解力を示していた。昨年度までは基礎的な講義が多かったが、今後はよりハイレベルの講義内容に変遷していく必要を感じた。</li> </ul> <p>5. 成果概要等</p> <p>研修生からは、「全てが良く計画された研修だったと思います。主任講師の高須先生を始め、機会を与えて頂いた日韓財団、実務担当のスリーエー、通訳の金さんに深く感謝します。今度の研修は韓国の企業に大いに役にたつと思うし、日本を知る良い機会だったと思います」等の言葉を頂いている。</p> <p style="text-align: right;">事務局業務の一部を(株)スリーエーネットワークに委託</p>	・江南化成(株)	次長	45才	・Next Instrument	次長	38才	・茶林特装(株)	課長	34	・DASAN C&I	課長	34	・東海産業(株)	課長	36	・(株)Motonic	次長	41	・宝星 POWERTEC(株)	課長	40	・(株)奉信	課長	35	・三永 Cable(株)	課長	35	・(株)三豪特殊	課長	30	・(株)CENTRAL	次長	41	・Waters Co.,Ltd	課長	30	・TURBOSEAL co.,ltd	Team長	35	・韓国熱処理	課長	29	・NARA Corporation	課長	40	・韓国 SMC 空圧(株)	課長	30	・(株)韓進 AirTech	課長	36	・Heshbon(株)	課長	31
・江南化成(株)	次長	45才	・Next Instrument	次長	38才																																																		
・茶林特装(株)	課長	34	・DASAN C&I	課長	34																																																		
・東海産業(株)	課長	36	・(株)Motonic	次長	41																																																		
・宝星 POWERTEC(株)	課長	40	・(株)奉信	課長	35																																																		
・三永 Cable(株)	課長	35	・(株)三豪特殊	課長	30																																																		
・(株)CENTRAL	次長	41	・Waters Co.,Ltd	課長	30																																																		
・TURBOSEAL co.,ltd	Team長	35	・韓国熱処理	課長	29																																																		
・NARA Corporation	課長	40	・韓国 SMC 空圧(株)	課長	30																																																		
・(株)韓進 AirTech	課長	36	・Heshbon(株)	課長	31																																																		

## 1. 産業技術人材育成事業

事業名	(4) 技術者専門研修 <span style="float: right;">【共同事業】</span>																
事業内容	<p>韓国中堅・中小企業の現場技術者を対象に、現場の実務と管理に必要な研修を実施。</p> <p>(1) 対象：中堅・中小企業の現場技術者40名程度（4コース、各コース10名）</p> <p>(2) 期間：2ヶ月半程度</p> <p>(3) 内容：講義／実習／工場見学</p>																
実施状況	<p>1. 概要</p> <p>31名の研修生が9月24日（火）来日、11月30日（土）帰国するまでの69日間、・北九州国際技術協力協会（略称K I T A、所在地：北九州市）において4コースに分かれて研修。</p> <p>人数：35名</p> <p>期間：2002年9月24日（火）来日～11月30日（土）帰国（69日間）</p> <p>コース：①金属部品の加工と生産性向上 ②生産性向上技術 ③生産性向上のための設備技術 ④クリーンプロダクションと環境先進技術 の4コース</p> <p>2. 内容</p> <p>各コースとも、講義／実習／工場見学、及び、4泊5日程度の研修旅行を実施。工場見学は九州一円の手企業中心に、研修テーマに関係する企業、研究機関、自治体施設など。</p> <table border="1" data-bbox="319 1025 1465 1518"> <thead> <tr> <th>コース名称／人員</th> <th>講義／実習項目</th> <th>研修受入機関企業</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①金属部品の加工と生産性向上 8名</td> <td>金属部品の各種加工法、試験検査法、劣化対策、品質管理、IE、QC、鋼材加工の自動化など</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>②生産性向上技術 13名</td> <td>IE、QC、シーケンス制御、JIT、工場レイアウト、VE、CAD/CAM、工程管理、物流管理、TPM など</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>③生産性向上のための設備技術 9名</td> <td>設備診断、修繕計画、腐食、磨耗、潤滑管理、軸受保全、工作機械保全、電動機保全、空圧機器保全、疲労破壊など</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>④クリーンプロダクションと環境先進技術 5名</td> <td>産廃処理行政、再資源化技術、リサイクル技術、有害廃棄物対策、塵埃焼却設備、下水処理、水産加工物処理など</td> <td>49</td> </tr> </tbody> </table> <p>3. 成果概要等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常にタイトな日程であったが、各界技術の権威者である講師及び指導員諸氏の熱意に溢れたご指導と、研修生の真摯な努力によって、高い研修成果と有意義な研修が得られた。</li> <li>・研修生の日本語能力については、来日時と比べ若干進歩したが、講師の話す日本語の理解が初期は特に困難であり、難しい技術に加えて言葉の理解に苦勞していた。しかし、個人によっては大幅に日本語が上達した者もいて、今後日本との産業交流を担ってくれると思われる。</li> <li>・「クリーンプロダクションと環境先進技術」コースについてはここ数年定員割れをしており、韓国中小企業に於いてのニーズが、そこまで行っていないのが現状のようである。また、他のコースに於いても、参加人員のバラツキがあるので、次年度は募集方法・各定員等の見直しを行っていく。</li> </ul> <p style="text-align: right;">・北九州国際技術協力協会（K I T A）に委託</p>		コース名称／人員	講義／実習項目	研修受入機関企業	①金属部品の加工と生産性向上 8名	金属部品の各種加工法、試験検査法、劣化対策、品質管理、IE、QC、鋼材加工の自動化など	21	②生産性向上技術 13名	IE、QC、シーケンス制御、JIT、工場レイアウト、VE、CAD/CAM、工程管理、物流管理、TPM など	38	③生産性向上のための設備技術 9名	設備診断、修繕計画、腐食、磨耗、潤滑管理、軸受保全、工作機械保全、電動機保全、空圧機器保全、疲労破壊など	30	④クリーンプロダクションと環境先進技術 5名	産廃処理行政、再資源化技術、リサイクル技術、有害廃棄物対策、塵埃焼却設備、下水処理、水産加工物処理など	49
コース名称／人員	講義／実習項目	研修受入機関企業															
①金属部品の加工と生産性向上 8名	金属部品の各種加工法、試験検査法、劣化対策、品質管理、IE、QC、鋼材加工の自動化など	21															
②生産性向上技術 13名	IE、QC、シーケンス制御、JIT、工場レイアウト、VE、CAD/CAM、工程管理、物流管理、TPM など	38															
③生産性向上のための設備技術 9名	設備診断、修繕計画、腐食、磨耗、潤滑管理、軸受保全、工作機械保全、電動機保全、空圧機器保全、疲労破壊など	30															
④クリーンプロダクションと環境先進技術 5名	産廃処理行政、再資源化技術、リサイクル技術、有害廃棄物対策、塵埃焼却設備、下水処理、水産加工物処理など	49															

## 1. 産業技術人材育成事業

事業名	(5) 理工系大学院生 ウィンターインスティテュート																																				
事業内容	<p>韓国の理工系大学院生（博士／修士課程在籍者）を冬休みを利用して約2ヶ月間日本へ招聘し、国立研究所等で専門分野に関する研究を実施。</p> <p>(1) 人数：45名程度 (2) 期間：2ヶ月程度</p> <p>(3) 内容：①研究活動 ②日本語学習 ③日本文化紹介</p>																																				
実施状況	<p>1. 概要</p> <p>大学院生47名（内女性14名）が2003年1月4日（土）来日、2月22日（土）帰国するまでの50日間、つくば地区及び東京地区等において、専門分野の研究活動・日本語学習・日本文化研修を行った。</p> <p>2. 受入研究機関</p> <table border="0"> <tr> <td>・物質・材料研究機構（つくば）</td> <td>4名</td> <td>・農業技術研究機構（つくば）</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>・気象庁気象研究所（つくば）</td> <td>1名</td> <td>・リモートセンシング技術センター（東京）</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>・国立環境研究所（つくば）</td> <td>4名</td> <td>・通信総合研究所（東京）</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>・産業技術総合研究所（つくば22名・北海道1名）</td> <td>22名</td> <td>・海洋科学技術センター（横須賀）</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>・食品総合研究所（つくば）</td> <td>1名</td> <td>・航空宇宙技術研究所（東京）</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>・森林総合研究所（つくば）</td> <td>1名</td> <td>・理化学研究所（東京）</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>・農業環境技術研究所（つくば）</td> <td>2名</td> <td>・NHK放送技術研究所（東京）</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>・防災科学研究所（つくば）</td> <td>1名</td> <td>・日本原子力研究所（千葉）</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>(計) 16機関×47名</td> <td></td> </tr> </table> <p>3. 特記</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>応募者の中からの最終選定（各研究機関とのマッチング作業）に於いて、各研究機関から「是非受入をしたい」、「優秀な子女が多い」等の評価を頂いた。この結果、予定人員45名に対して、プラス3名の48名を合格とした。（直前に1名キャンセル、47名来日）</li> <li>本年度より各研究機関に対して、研究助成費として50,000円／名の補助を出すこととした。これは、14年より各研究機関が独立法人化となり、研修の成果がより求められるのと、予算管理がより厳しくなっているためである。各ホスト研究者からは、「いろいろ便利に使わせて頂いた」との評価を頂いている。</li> </ul> <p>4. 成果等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回で10回目を迎えた当プログラムは、日韓の研究交流・友好親善を図るよいプログラムとして両国で知られ、既に共同研究等で交流のある研究者がこれを利用して学生を送ったり、この機会を利用して参加学生の指導教官がホスト研究所を訪問して継続的な交流に発展するなど、日韓両国研究者間のネットワークづくりに繋がっている。</li> <li>今回も当事業への応募者数は90名を数え、2倍弱の競争率で選抜されて来ている。研修生の多くが明確な目的をもってプログラムに参加し、新しい技術・知識の習得を図り研究活動の成果を出している。また、ホスト研究者からもその実力について高い評価を頂いている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">・科学技術国際交流センター（JISTEC）に委託</p>	・物質・材料研究機構（つくば）	4名	・農業技術研究機構（つくば）	1名	・気象庁気象研究所（つくば）	1名	・リモートセンシング技術センター（東京）	1名	・国立環境研究所（つくば）	4名	・通信総合研究所（東京）	2名	・産業技術総合研究所（つくば22名・北海道1名）	22名	・海洋科学技術センター（横須賀）	1名	・食品総合研究所（つくば）	1名	・航空宇宙技術研究所（東京）	1名	・森林総合研究所（つくば）	1名	・理化学研究所（東京）	3名	・農業環境技術研究所（つくば）	2名	・NHK放送技術研究所（東京）	1名	・防災科学研究所（つくば）	1名	・日本原子力研究所（千葉）	1名			(計) 16機関×47名	
・物質・材料研究機構（つくば）	4名	・農業技術研究機構（つくば）	1名																																		
・気象庁気象研究所（つくば）	1名	・リモートセンシング技術センター（東京）	1名																																		
・国立環境研究所（つくば）	4名	・通信総合研究所（東京）	2名																																		
・産業技術総合研究所（つくば22名・北海道1名）	22名	・海洋科学技術センター（横須賀）	1名																																		
・食品総合研究所（つくば）	1名	・航空宇宙技術研究所（東京）	1名																																		
・森林総合研究所（つくば）	1名	・理化学研究所（東京）	3名																																		
・農業環境技術研究所（つくば）	2名	・NHK放送技術研究所（東京）	1名																																		
・防災科学研究所（つくば）	1名	・日本原子力研究所（千葉）	1名																																		
		(計) 16機関×47名																																			

## 2. 韓国産業生産性向上協力事業

事業名	(1) 生産性向上モデル企業育成事業																																																
事業内容	<p>韓国中堅・中小企業の中から、生産性向上を進めるモデル企業として育成するために、12社を選定し、日本から派遣する専門家が企業毎に企業診断及び生産性の意識・技術を高め生産性向上に協力する。企業毎にチームを編成し専門家が生産性向上を図るための手法を具体的に指導し、経営分析を行い、診断する。経営問題を始め生産性向上等の諸改善計画策定を支援する。又諸問題に対してコンサルティングを行う。</p>																																																
実施状況	<p>1. 対象          今年度対象企業として、12社を選定。(60社が応募)</p> <table border="0"> <tr> <td>(1) D Y 株</td> <td>(華城市)</td> <td>[SMC バスタブ、浄化槽]</td> <td>金子、伊豫部</td> </tr> <tr> <td>(2) 斗榮電子株</td> <td>(忠南唐津)</td> <td>[電子式安定器、コンパクト灯]</td> <td>柴田、梅原</td> </tr> <tr> <td>(3) 成鎬電子株</td> <td>(ソウル)</td> <td>[フィルムコンデンサ、製造機器]</td> <td>金子、山崎</td> </tr> <tr> <td>(4) 株三 信</td> <td>(天安市)</td> <td>[鍛造バルブ、鋳造バルブ]</td> <td>伊豫部、梅原</td> </tr> <tr> <td>(5) 三豊工業株</td> <td>(釜山市)</td> <td>[自動車フレームアッセンブリー]</td> <td>金子、田中</td> </tr> <tr> <td>(6) 平和機工株</td> <td>(大邱市)</td> <td>[金型機械、自動車部品]</td> <td>三好、梅原</td> </tr> <tr> <td>(7) 株煥雄精工</td> <td>(昌原市)</td> <td>[大型エンジン部品、産業機械部品]</td> <td>伊豫部、西</td> </tr> <tr> <td>(8) 株世原物産</td> <td>(永川市)</td> <td>[自動車部品、パネルアッセンブリー]</td> <td>三好、柴田</td> </tr> <tr> <td>(9) 韓国熱処理</td> <td>(昌原市)</td> <td>[各種金属熱処理]</td> <td>石塚、伊豫部 *</td> </tr> <tr> <td>(10)株Motonic</td> <td>(昌原市)</td> <td>[キャブレター、ロッカーアーム]</td> <td>石塚、辻 **</td> </tr> <tr> <td>(11)株湖 龍</td> <td>(全北金堤)</td> <td>[はしご車、高所作業車]</td> <td>伊豫部、西 ***</td> </tr> <tr> <td>(12)株YIENT</td> <td>(大邱市)</td> <td>[ファクトリーオートメーション、ビジョンシステム]</td> <td>三好、和田 ***</td> </tr> </table> <p>*工場診断実施、**コンサルティング事業実施          各社の最終列は専門家氏名を表す。</p> <p>2. 実施内容          (1) 1社に対し各延べ2週間の現場指導を実施。          コンサルティング事業、工場診断については1週間実施。          (2) 1社に対し専門家2名が夫々その専門性に応じて、生産性向上全般、技術改善を指導。          (3) 必要に応じてセミナーや管理者教育(役割意識啓蒙)を実施。          (4) 問題意識の高揚と生産性向上を目指し、自主改善プロジェクトチーム(2チーム/社)を編成し、活動(プロジェクト事業)。          (5) 個別の技術問題・技術課題等に関しては、実情に応じて対処。</p> <p>3. 成果概要          (1) 各社の実情に合わせたきめ細かな指導協力を行った結果、経営者、管理者、従業員は生産性向上に向けての自分の役割を再認識し、職場の活性化など改善に取り組んだ。          (2) 技術改善に関しては可能な限りの協力を行い、生産性向上に寄与した。          (3) 生産性向上に関する自主解決力が養われ、継続できる風土づくりができた。          (4) 経営改善に対する具体的な実施項目と計画が策定できた。</p> <p style="text-align: right;">事務局業務を日本エンジェルキャピタル(株)に委託</p>	(1) D Y 株	(華城市)	[SMC バスタブ、浄化槽]	金子、伊豫部	(2) 斗榮電子株	(忠南唐津)	[電子式安定器、コンパクト灯]	柴田、梅原	(3) 成鎬電子株	(ソウル)	[フィルムコンデンサ、製造機器]	金子、山崎	(4) 株三 信	(天安市)	[鍛造バルブ、鋳造バルブ]	伊豫部、梅原	(5) 三豊工業株	(釜山市)	[自動車フレームアッセンブリー]	金子、田中	(6) 平和機工株	(大邱市)	[金型機械、自動車部品]	三好、梅原	(7) 株煥雄精工	(昌原市)	[大型エンジン部品、産業機械部品]	伊豫部、西	(8) 株世原物産	(永川市)	[自動車部品、パネルアッセンブリー]	三好、柴田	(9) 韓国熱処理	(昌原市)	[各種金属熱処理]	石塚、伊豫部 *	(10)株Motonic	(昌原市)	[キャブレター、ロッカーアーム]	石塚、辻 **	(11)株湖 龍	(全北金堤)	[はしご車、高所作業車]	伊豫部、西 ***	(12)株YIENT	(大邱市)	[ファクトリーオートメーション、ビジョンシステム]	三好、和田 ***
(1) D Y 株	(華城市)	[SMC バスタブ、浄化槽]	金子、伊豫部																																														
(2) 斗榮電子株	(忠南唐津)	[電子式安定器、コンパクト灯]	柴田、梅原																																														
(3) 成鎬電子株	(ソウル)	[フィルムコンデンサ、製造機器]	金子、山崎																																														
(4) 株三 信	(天安市)	[鍛造バルブ、鋳造バルブ]	伊豫部、梅原																																														
(5) 三豊工業株	(釜山市)	[自動車フレームアッセンブリー]	金子、田中																																														
(6) 平和機工株	(大邱市)	[金型機械、自動車部品]	三好、梅原																																														
(7) 株煥雄精工	(昌原市)	[大型エンジン部品、産業機械部品]	伊豫部、西																																														
(8) 株世原物産	(永川市)	[自動車部品、パネルアッセンブリー]	三好、柴田																																														
(9) 韓国熱処理	(昌原市)	[各種金属熱処理]	石塚、伊豫部 *																																														
(10)株Motonic	(昌原市)	[キャブレター、ロッカーアーム]	石塚、辻 **																																														
(11)株湖 龍	(全北金堤)	[はしご車、高所作業車]	伊豫部、西 ***																																														
(12)株YIENT	(大邱市)	[ファクトリーオートメーション、ビジョンシステム]	三好、和田 ***																																														

## 2. 韓国産業生産性向上協力事業

事業名	(2) 専門技術者派遣 <span style="float: right;">【共同事業】</span>																															
事業内容	<p>九州と韓国間の貿易、投資及び産業技術分野に於ける協力の促進と、双方の地方間経済交流の拡大を目的として「九州・韓国経済交流会議」が、両国政府、地方自治体、民間団体を中心に、93年より定期的に開催されている。</p> <p>本事業は、同会議で合意された事業のうちの一つ。</p> <p>当財団は本事業の所要経費の全額を支援。</p>																															
実施状況	<p>1. 実施内容概要</p> <p>(1) 2002年7月                      ・北九州国際技術協力協会 (KITA)、北九州市国際経済課スタッフによる短期専門技術者派遣のための事前調査 (対象先 12社)</p> <p>(2) 2002年9月                      選定された専門技術者による事前訪問 (選定企業 6社、指導先との打合せ)</p> <p>(3) 2002年10月～12月      本指導実施 5社 (選定企業 1社 辞退)</p> <table border="1" data-bbox="316 1070 1473 1366"> <thead> <tr> <th></th> <th>派遣先</th> <th>派遣技術者</th> <th>派遣期間</th> <th>指導内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>韓国 Power train(株)</td> <td>西 武史</td> <td>14日間</td> <td>MAG Welding の Spatter 防止対策</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>KIC(株)</td> <td>西 武史</td> <td>14日間</td> <td>肉盛溶接における多電極化の可能性</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>世元 E&amp;T(株)</td> <td>本村 隆</td> <td>13日間</td> <td>Directional Control Valve の品質管理</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>Sun Flexonics Inc</td> <td>額額良男</td> <td>7日間</td> <td>Tube 溶接ラインの速度アップと不良率減少</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>太陽機電(株)</td> <td>小林昭行</td> <td>14日間</td> <td>MECH.Valve の開発の進め方</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 派遣指導結果の評価</p> <p>昨年と同様に事前調査、事前訪問による派遣先企業の具体的ニーズ確認の上、指導範囲を絞って明確に設定した。基本的な専門技術や現場技能に係わる指導であったこと、専門技術者が高い技術と豊富な経験を有していたことなどから、早期に解決を図る手法を習得し、すべての企業と相手側技術者から高い評価を得ることができた。又、技術指導をより効果的に実施するために事後調査も行った。(03年2月)</p> <p style="text-align: center;">・北九州国際技術協力協会 (K I T A)、韓国中小企業振興公団に委託</p>			派遣先	派遣技術者	派遣期間	指導内容	1	韓国 Power train(株)	西 武史	14日間	MAG Welding の Spatter 防止対策	2	KIC(株)	西 武史	14日間	肉盛溶接における多電極化の可能性	3	世元 E&T(株)	本村 隆	13日間	Directional Control Valve の品質管理	4	Sun Flexonics Inc	額額良男	7日間	Tube 溶接ラインの速度アップと不良率減少	5	太陽機電(株)	小林昭行	14日間	MECH.Valve の開発の進め方
	派遣先	派遣技術者	派遣期間	指導内容																												
1	韓国 Power train(株)	西 武史	14日間	MAG Welding の Spatter 防止対策																												
2	KIC(株)	西 武史	14日間	肉盛溶接における多電極化の可能性																												
3	世元 E&T(株)	本村 隆	13日間	Directional Control Valve の品質管理																												
4	Sun Flexonics Inc	額額良男	7日間	Tube 溶接ラインの速度アップと不良率減少																												
5	太陽機電(株)	小林昭行	14日間	MECH.Valve の開発の進め方																												

## 2. 韓国産業生産性向上協力事業

事業名	(3) 生産性向上短期コンサルティング <span style="float: right;">【共同事業】</span>																								
事業内容	<p>企業の生産性向上に協力するため、中小企業を対象に7つの技術分野の日本の専門家が各分野毎に企業に出向き指導協力を行う短期コンサルティング。(1.5日/社)</p> <p>‘96年度から‘01年度で6回実施。</p>																								
実 施 状 況	<p>1. 期間 2002年(平成13年) 11月18日(月) ~ 23日(土)</p> <p>2. 実施内容 (1) 指導専門家: 7人 (2) 訪問企業: 21社 (3) 企業所在地: 安山市周辺工業団地 (4) 内 容: 機械組立自動化、電子組立自動化、機械加工、溶接技術、プレス金型技術、射出成形、金属加工に関する計7人の技術専門家が、1人3社合計21社の中小企業を訪問し、事情聴取、現場視察を行ってその企業の抱えている問題を把握しそれらに対する適切な改善策、今後の方策等を提示した。</p> <p>3. 成果概要等 1.5日の短期のコンサルティングにもかかわらず、大部分の企業が、高く評価している。今後共、指導内容の充実化を図っていきたい。</p> <p>4. その他 実施企業21社及び指導を行った専門家は下記の通りである。</p> <table border="0" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left; width: 20%;"><u>分野</u></th> <th style="text-align: left; width: 20%;"><u>専門家氏名</u></th> <th style="text-align: left; width: 80%;"><u>実施企業名</u></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 機械組立て自動化</td> <td>柴田 力</td> <td>①信一精密(株) ②(株)五洋空調機 ③(株)二和定量ポンプ</td> </tr> <tr> <td>2. 電子組立て自動化</td> <td>山崎 浩</td> <td>④(株)POWWEL 電子産業 ⑤HIROSE KOREA(株) ⑥韓国河合電熱(株)</td> </tr> <tr> <td>3. 機械加工</td> <td>梅原 敏靖</td> <td>⑦徳池産業(株) ⑧(株)泰逸送風機 ⑨(株)JACO FITNES</td> </tr> <tr> <td>4. 溶接技術</td> <td>西 武史</td> <td>⑩大龍 E &amp; C ⑪(株)泰成産電 ⑫(株)成進電気</td> </tr> <tr> <td>5. プレス金型技術</td> <td>伊豫部将三</td> <td>⑬東興精密工業社 ⑭(株)輝 一 ⑮(株)新興産業(株)</td> </tr> <tr> <td>6. 射出成形</td> <td>渋谷 泰宏</td> <td>⑯(株)明星 SEMITRON ⑰瑞光社 ⑱光元精密</td> </tr> <tr> <td>7. 金属加工</td> <td>三好 紀臣</td> <td>⑲(株)友進鍍金 ⑳(株)K2ENG ・大成工業(株)</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; margin-top: 10px;">事務局業務を日本エンジェルキャピタル(株)に委託</p>	<u>分野</u>	<u>専門家氏名</u>	<u>実施企業名</u>	1. 機械組立て自動化	柴田 力	①信一精密(株) ②(株)五洋空調機 ③(株)二和定量ポンプ	2. 電子組立て自動化	山崎 浩	④(株)POWWEL 電子産業 ⑤HIROSE KOREA(株) ⑥韓国河合電熱(株)	3. 機械加工	梅原 敏靖	⑦徳池産業(株) ⑧(株)泰逸送風機 ⑨(株)JACO FITNES	4. 溶接技術	西 武史	⑩大龍 E & C ⑪(株)泰成産電 ⑫(株)成進電気	5. プレス金型技術	伊豫部将三	⑬東興精密工業社 ⑭(株)輝 一 ⑮(株)新興産業(株)	6. 射出成形	渋谷 泰宏	⑯(株)明星 SEMITRON ⑰瑞光社 ⑱光元精密	7. 金属加工	三好 紀臣	⑲(株)友進鍍金 ⑳(株)K2ENG ・大成工業(株)
<u>分野</u>	<u>専門家氏名</u>	<u>実施企業名</u>																							
1. 機械組立て自動化	柴田 力	①信一精密(株) ②(株)五洋空調機 ③(株)二和定量ポンプ																							
2. 電子組立て自動化	山崎 浩	④(株)POWWEL 電子産業 ⑤HIROSE KOREA(株) ⑥韓国河合電熱(株)																							
3. 機械加工	梅原 敏靖	⑦徳池産業(株) ⑧(株)泰逸送風機 ⑨(株)JACO FITNES																							
4. 溶接技術	西 武史	⑩大龍 E & C ⑪(株)泰成産電 ⑫(株)成進電気																							
5. プレス金型技術	伊豫部将三	⑬東興精密工業社 ⑭(株)輝 一 ⑮(株)新興産業(株)																							
6. 射出成形	渋谷 泰宏	⑯(株)明星 SEMITRON ⑰瑞光社 ⑱光元精密																							
7. 金属加工	三好 紀臣	⑲(株)友進鍍金 ⑳(株)K2ENG ・大成工業(株)																							

## 3. 産業技術交流事業

事業名	(1) 産業技術交流促進ミッション		【共同事業】
事業内容	<p>韓国中堅・中小企業の経営者／中堅幹部を1回につき40名程度日本に招聘し、日本の中堅・中小企業の工場見学を中心に産業技術交流を年2回実施。</p> <p>(1)対象：韓国中堅・中小企業の経営者クラス 40名程度／回</p> <p>(2)期間：1週間程度／回</p> <p>(3)内容：①工場見学（機械系と電機系の2グループに分け、各グループ5工場程度を見学） ②日韓中堅・中小企業経営者交流会、③展示会見学、④セミナー、等</p>		
実施状況		2002年度春季 (第14回)	2002年度秋季 (第15回)
	期間 (来日～帰国)	02年5月20日 (月)～25日 (土)	02年10月14日 (月)～19日 (土)
	場所	広島／岡山	福島／宮城
	ミッションメンバー	38名	40名
	後援	中国経済産業局・広島県・岡山県・広島／岡山県商工会議所連合会・JETRO 岡山ほか4機関	東北経済産業局・福島県・宮城県・郡山市・JETRO 福島／仙台ほか5機関
	内容	工場見学 ・マツダ(株) ・みのる産業(株) ・(株)アドテック ・オムロン岡山 (株) ・ローツエ(株) ・岡山サチパーク ・(株)トーワテクノ	・小松ゼノア(株) ・東北電子産業(株) ・松下電工(株) ・東洋刃物(株) ・福島県イテグランド
		展示会見学 なし	「みやぎいもてカフェア」 於：夢メッセ宮城
		セミナー 講師 ヒロポー (株) 取締役社長 松坂敬太郎氏 テーマ：「挑戦とロマン－ 企業転換と新産業想像－」 於：広島国際会議場 会議室	講師 ・みやぎ工業会 会長 松村富廣氏 テーマ：「日・中・韓の深まる経済関係－ 中堅・中小企業の今後－」 於：21世紀プラザ研究センター
	企業交流会 広島県、岡山県それぞれにおいて実施 日本企業約68名が参加	福島県、宮城県それぞれにおいて実施 日本企業約80名が参加	
	歓迎レセプションパーティー 企業交流会に引き続き2回開催 出席者は、広島100名、岡山120名の参加	企業交流会に引き続き2回開催 出席者は、福島100名、宮城130名参加	
<p>成果概要等</p> <p>本ミッションは3年前より、日韓地域間交流促進という両国政府方針に沿って、訪問地を主として「地方」にするとともに訪問地の経済産業局はじめ官公庁経済団体の後援をいただいで実施しており、その全面的ご支援のお陰で、より一層充実した内容で開催できるようになってきている。1週間の間に数百人の関係者を整齊と動かす必要があり、準備は大変であるが、ミッションメンバーからは「周到に準備・手配がなされており感心した」とのコメントを毎回得ている。本ミッションは、日韓友好促進と日韓地域間交流促進に役立っている。</p> <p>14回、15回共事務局業務を(株)インターグループ名古屋支社委託</p>			

### 3. 産業技術交流事業

事業名	(3) 官民若手交流事業/次世代オピニオンリーダー派遣・受入れ事業 【共同事業】
事業内容	日韓両国の産業界・経済界、官公庁、マスコミ、学会、文化・芸術関係者等、各界の若手実力者を相互に招聘し、テーマを決めた全体交流、各界個別の交流、文化交流などを行い、現状認識・相互理解・国際交流を深めると共に、次世代の日韓関係を担うオピニオンリーダーの育成を図ることを目的とした事業。
実施状況	<p>1. 対象人数等 日本及び韓国の次世代オピニオンリーダー(各界の<b>30～40</b>才代の若手実力者)を対象とし、日本からは<b>24</b>名派遣、韓国からは<b>27</b>名を受入れ。</p> <p>2. 実施時期 (1) 第<b>3</b>回次世代オピニオンリーダー交流訪韓団：<b>2002</b>年<b>9</b>月<b>4</b>日～<b>13</b>日 (2) 第<b>3</b>回次世代オピニオンリーダー交流訪日団：<b>2002</b>年<b>12</b>月<b>9</b>日～<b>18</b>日</p> <p>3. 概要及び成果 (1) 第<b>3</b>回次世代オピニオンリーダー交流訪韓団 ①交通商部・産業資源部・大韓貿易投資振興公社(KOTRA)・国会議員等の韓国政府関係者との面談を始め、現代重工業蔚山工場・三星電子水原工場の見学、釜山中小企業経営者との交流会、大学教授・専門家による経済・文化講演、梨花女子高校・延世大学校に於ける学生・教授との交流、慶州の史跡見学、非武装地帯の視察など、<b>10</b>日間に亘る充実した内容であった。 ②参加メンバーの平均年齢が<b>39</b>歳で、大半が初めての訪韓であり、先入観無しに韓国を体験し、訪問先では積極的に質問・討議し、未来指向の友好関係構築に大きな役割を果たした。その後梨花女子高校では第<b>2</b>外国語に日本語を採用する等、具体的成果を得た。</p> <p>(2) 第<b>3</b>回次世代オピニオンリーダー交流訪日団 ①国会・外務省・韓国大使館等の政府関係先の訪問・懇談を始め、大田区中小企業・アサヒールの最新鋭工場・東芝科学館の見学や、国立スポーツ科学センター・国際電気通信技術研究所の最先端研究施設の見学、東京青年会議所の若手経営者との討議、同志社大学の訪問と教授・学生との討議、京都映画村の見学と映画についての文化講演など、多彩なスケジュールを消化した。 ②特に東京青年会議所での分野別討議や、同志社大学の大学生・院生を相手にした議論は熱が籠ったものであった。また、独自技術を持つ中小企業や最先端の工場・研究施設を訪問して、不況下に喘いでいるとはいえ、日本の産業の底力を実感したものと思う。 帰国後、メンバーの間で過去に韓国に貢献した日本人を発掘しようという動きが広がっている。</p> <p style="text-align: right;">事務局業務の一部を㈱JTBに委託</p>

### 3. 産業技術交流事業

事業名	(4) 地域間各種交流事業支援 ① 日韓部品・素材産業協議体／合同会議																										
事業内容	<p>1999年12月16日東京で開催された第2回日韓官民合同投資促進協議会にて、両国の部品・素材産業の協力促進の為に、関連企業間の情報交流、共同研究、ミッション交換等の望ましいあり方に就いて検討し、提言を取り纏める民間レベルの協議体を設置することに合意、当財団が日本側事務局を引き受けたもの。今年度は、日本に於いて第3回日韓 韓日部品・素材産業協議体合同会議を開催した。</p>																										
実施状況	<p>1. 両国協議体委員構成</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="text-align: left;">日本</th> <th style="text-align: left;">韓国</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委員長 瀬戸</td> <td>委員長 金</td> </tr> <tr> <td>委員 森本</td> <td>委員 呉</td> </tr> <tr> <td>島田</td> <td>李</td> </tr> <tr> <td>田勢</td> <td>高</td> </tr> <tr> <td>飯塚</td> <td>李</td> </tr> <tr> <td>上田</td> <td>安</td> </tr> <tr> <td>山田</td> <td>梁</td> </tr> <tr> <td>伊東</td> <td>黄</td> </tr> <tr> <td>服部</td> <td>金</td> </tr> <tr> <td>石田</td> <td>朱</td> </tr> <tr> <td>代表幹事 成田</td> <td>代表幹事 韓</td> </tr> <tr> <td>オブザーバー 塩田</td> <td>オブザーバー 朴</td> </tr> </tbody> </table> <p>2. 経緯及び成果</p> <p>(1) 第3回日韓・韓日部品・素材産業協議体合同会議 平成14年11月6日 東京ドームホテル「シリウス」 両国の委員間で、「日本の中小企業の衰退問題」、「中国の急激な台頭対策問題」、「日韓企業の水平分業について」、「両国のFTA締結問題」、「韓国よりの部品・素材ミッション受け入れ」、「日韓共同研究」等に関し活発な意見交換がなされた。</p> <p>(2) 第3回日韓・韓日部品・素材産業協議体夕食懇談会 平成14年11月6日 東京ドームホテル「アーティスト カフェ」 合同会議終了後、席を移し、両国委員は夕食を共にしながら、非公式な意見交換、及び親交を深めた。</p>	日本	韓国	委員長 瀬戸	委員長 金	委員 森本	委員 呉	島田	李	田勢	高	飯塚	李	上田	安	山田	梁	伊東	黄	服部	金	石田	朱	代表幹事 成田	代表幹事 韓	オブザーバー 塩田	オブザーバー 朴
日本	韓国																										
委員長 瀬戸	委員長 金																										
委員 森本	委員 呉																										
島田	李																										
田勢	高																										
飯塚	李																										
上田	安																										
山田	梁																										
伊東	黄																										
服部	金																										
石田	朱																										
代表幹事 成田	代表幹事 韓																										
オブザーバー 塩田	オブザーバー 朴																										

### 3. 産業技術交流事業

事業名	(4) 地域間各種交流事業支援 ② 九州・韓国経済交流会議関連事業への参加と支援
事業内容	九州と韓国の貿易、投資及び一産業技術分野に於ける協力の促進と、双方の地方間経済交流の拡大を目的として「九州・韓国経済交流会議」が、両国政府、地方自治体、民間団体を中心に、 <b>93</b> 年より定期的に開催されている。 本事業は、同会議で合意された事業のうちの一つ。 財団は本事業の所要経費の一部を支援する他、事業の一つに当る下記交流ミッションに参加。
実施状況	<p>I 第6回九州・韓国産業技術交流ミッション</p> <p>1. 事業主催者 当財団、経済産業省九州経済産業局</p> <p>2. ミッション参加者 日本企業14社、韓国企業40社、(機械、電気・電子、ソフトウェア)、九州経済産業局、北九州市、九州機械工業振興会、当財団</p> <p>3. 実施期間 2003年2月19日～2月21日(3日間)</p> <p>4. 実施場所 大韓民国・ソウル市及び京畿道</p> <p>5. 主要行事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国企業視察(機械、液晶画面メーカー、電気・電子)</li> <li>・企業間個別商談会</li> <li>・韓国駐在日系企業との懇談会</li> <li>・産業資源部、韓国機械産業振興会、韓国電子産業振興会、韓国産業団地公団訪問・意見交換</li> </ul> <p>6. 成果概要 韓国を訪問し韓国企業の経営環境、直面せる諸問題を理解した事により、今後の交流に成果を期待したい。尚、成果「第1号」として、ミッション参加企業「計測検査」が「韓国計測技術研究所」に「コンクリート構造物ひび割れ検出システム」の技術供与する契約が3月に締結された。</p> <p>II 第9回九州・韓国経済交流会議</p> <p>1. 実施機関 2002年8月28日～8月30日</p> <p>2. 実施場所 鹿児島 「霧島いわさきホテル」</p> <p>3. 主要行事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九州・韓国経済交流会議</li> <li>・九州・韓国貿易促進セミナー</li> </ul> <p>(当財団の支援下に、九州、韓国の「半導体産業の現状」を理解する為に、日本側は(株)安川電機木村技術開発部長、韓国側は徐半導体産業協会副会長に講演して頂いた。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・九韓投資環境説明会</li> </ul>

### 3. 産業技術交流事業

事業名	(4) 地域間各種交流事業支援 ③ 北陸・韓国経済交流会議、及び 東北・韓国産業交流ミッションへの支援
事業内容	日韓地域間の貿易、投資及び産業技術分野に於ける協力の促進と、双方の地域間交流協力の拡大を目的として2002年度は、「北陸・韓国経済交流」、及び「東北・韓国経済交流」の支援を実施した。
実施状況	<p><b>A. 第3回北陸・韓国経済交流会議</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施日 2002年4月24日～26日（3日間） 於：金沢「都ホテル」</li> <li>2. 主催者 中部経済産業局、韓国産業資源部／韓日財団</li> <li>3. 協力機関 新潟県、富山県、石川県、福井県、関連経済団体及び当財団</li> <li>4. 概要             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本からは、中部経済産業局長を始め、石川・新潟・富山・福井等の自治体幹部や北陸経済連合会等の関係者が参加した。</li> <li>(2) 韓国からは、産業資源部の鄭俊石国際協力投資局長以下政府関係者、大邱広域市・慶尚北道等の自治体、経済団体関係者が参加し、経済交流会議を開催すると共に、商談会や産業施設を見学した。</li> </ol> </li> <li>5. 当財団の支援 当初の企画段階より関与し、特に、4月25日の夕食会は当財団主催にて、「ワーキングディナー」の形式で行った。</li> </ol> <p><b>B. 第4回東北・韓国産業交流促進ミッション</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実施日 2003年1月23日～1月24日 於：韓国 ソウル「ホテルロッテ」</li> <li>2. 主催者 東北経済産業局、韓国産業資源部／韓日財団</li> <li>3. 協力機関 宮城県、福島県、青森県、岩手県、秋田県、山形県、仙台市、関連経済団体及び当財団</li> <li>4. 概要             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 日本からは、東北経済産業局産業部次長を始め、東北六県、仙台市等の自治体幹部や東北経済連合会等の関係者が参加した。</li> <li>(2) 韓国からは、産業資源部黄亜州協力課長以下政府関係者、釜山広域市・慶尚北道等の自治体、経済団体関係者が参加した。</li> <li>(3) 第4回東北・韓国経済交流会議、日韓両国の地域に於ける「外国企業誘致現況」の説明会、産業資源部との打合せ、<b>KOTRA</b> との打合せを行った。</li> </ol> </li> <li>5. 当財団の支援 当財団の事業を広く理解して貰い、事業に参加（実績：2002年度「産業技術交流ミッション」は東北で実施）して貰う意味もあり、最初の段階より積極的に関与した。資金面では韓国現地交通費（バスチャーター代）を負担した。</li> </ol>

## 4. 調査広報事業

事業名	(1) 産業国際競争力向上セミナー <span style="float: right;">【共同事業】</span>
事業内容	韓国産業の国際競争力向上に資するため、韓国中堅・中小企業の経営者を対象に、日本の企業経営者の経験を事例を交えて紹介し、韓国企業への適用の可能性を考察させることを目的とするセミナー。
実施状況	<p>1. 開催日： 2002年7月11日～12日 (2日間)</p> <p>2. 開催場所： 新羅ホテル済州</p> <p>3. 参加人員： 124名</p> <p>4. 内 容</p> <p>    &lt;第一日目&gt;</p> <p>        基調講演：「アサヒビールの軌跡～経営革新とリーダーシップ」                  講師 アサヒビール(株)取締役相談役                          (社) 日韓経済協会会長                          (財) 日韓産業技術協力財団理事長 瀬戸 雄三</p> <p>        特別講演：「超一流企業を目指した経営革新」                  講師 大韓民国産業資源部 次官 林 来圭</p> <p>        事例報告①：「韓国フランチャイズ産業の成長戦略」                  講師 (株) ジェナシス 会長 伊 洪根</p> <p>    &lt;第二日目&gt;</p> <p>        健康講座：「如何にして身体と心を健康に保ち続けるか」                  講師 国仙道協会 会長 金 性煥</p> <p>        事例報告②：「21世紀企業が必要とする知識財産権・今は特許戦争時代」                  講師 大韓民国特許庁資料局局長 金 鎮</p> <p>        事例報告③：「ばねの通信販売」                  講師 沢根スプリング(株)代表取締役 沢根 孝佳</p> <p>        事例報告④：「オンラインを利用した中小製造業の販売戦略」                  講師 (株) オーテック 代表取締役 呉宮 仁鎬</p> <p>        事例報告⑤：「韓国での合弁企業経営15年」                  講師 三国R・K精密(株) 顧問 田島 崇男</p> <p>5. 成果等</p> <p>    (1) 今回は、瀬戸理事長にご出席願ひ、従業員の一団性を高め困難な目標を達成していく、企業経営の真髓を示した、きわめて感動的な基調講演で幕を開いた。          また、中小企業ならではの独自の販路開拓、調達あるいは店舗経営手法などに就いて革新的な考え方が開陳され、全体的には21世紀の中堅企業の経営革新ノウハウを極めて実践的に学び取れる場になった。</p> <p>    (2) 韓国、官界関係講師による基本的な講演は、経営者として最低限知っておくべき内容であり、原点に戻り自己を見直す機会を提供したものである。但し、今後は教科書的な内容でなく、実践を踏まえた講演とする工夫が必要。</p>

## 4. 調査広報事業

事業名	(2) 各種委託調査
事業内容	<p>韓国産業振興のための基礎調査、分析及び報告書作成或いは特定業種分野の問題研究。 対象は日韓の産業・技術（機械・自動車・電気・電子・化学等製造業の各分野）とその周辺の環境調査。</p>
実施状況	<p>本年度実施した調査は下記の通り。 （報告書は日韓両国政府及び関係機関、関係企業等に配布）</p> <p>1. 日韓両国の中小企業相互補完可能性調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の製造業は、中国などアジア諸国への生産機能移転が進展し、海外生産比率を高めてきた。このような中、中小製造業の多くは、産業空洞化の影響を大きく受け、苦境にあえいでいる。また、卸小売業やサービス業においては、大企業との競争激化や流通構造再編の中で、同様に問題を抱えている。</li> <li>・ こうした状況は、日本の中小企業だけでなく、中国への製造業移転や国内の構造改革が進行している韓国の中小企業においても、共通にみられる課題である。</li> <li>・ 一方で、このような厳しい環境の中においても、自社の強みを生かし、業績の維持・向上を実現している中小企業が存在する。</li> <li>・ 本調査は、このような背景の下で、日本の中小企業が抱える問題点・課題を踏まえた上で、日韓両国の中小企業間の相互補完（協力・連携）の可能性を明らかにすることを目的としている。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(株)野村総合研究所に委託</p> <p>2. 広島～釜山間国際定期フェリー就航に伴う日韓間の経済・人的交流の促進等に関する調査</p> <p><b>1997年（平成9年）1月</b>の韓国総領事館の広島への設置や、その後の慶尚南道、釜山広域市との交流促進の一つの成果として、<b>2002年（平成14年）10月22日</b>に広島港と韓国・釜山港の間に、国際定期フェリーが就航することとなった。このため、広島県と韓国との新たな国際経済・人的交流システムを構築し、経済・人的交流の促進及び県内産業の活性化を図るため、両国間における物や人の動向等について実態調査や分析を行うと共に、地域経済への影響予測やフェリーの利用促進のための検討等を行なう。</p> <p style="text-align: right;">(株)日通総合研究所に委託</p> <p>3. <b>2001年</b>韓国経営研究会（ソウルジャパンクラブ-SJC-加入企業による経営研究会実施を委託、年<b>4回</b>実施の会合記録）</p> <p style="text-align: right;">(株)野村総合研究所ソウル支店に委託</p>

## 4. 調査広報事業

事業名	(3) 各種広報事業 a. 両国財団シンポジウム (調査報告検討会) 【共同事業】
事業内容	<p>広島県と当財団が共同調査した「広島・釜山間国際定期フェリー就航に伴う日韓間の物流・経済等に関する調査」を踏まえて「日韓物流促進セミナー」が広島で開催された。 (日・韓両財団、広島県による共同主催)</p>
実施状況	<p>－内容－</p> <p>(1) 基調講演：「日韓間における経済交流の現状と今後の展望」 駐広島大韓民国総領事 李 河 鎮 韓国経済の現状、韓日経済交流の現状、韓日経済交流の展望、中国地方との交流について講演が行われた。その中で、構造的な課題による韓国から見た対日赤字の状況説明。最近貿易、投資面で伸び悩みがあるが、日本からの一層の投資を期待する旨。中国地方との交流の取組み等の方針説明等が行われた。</p> <p>(2) プレゼンテーション：「広島港の物流戦略について」 広島県航空港湾局 和田好夫氏 韓国と広島の貿易、広島港の現状、使いやすい港づくりに向けてプレゼンが行われた。その中で広島県のコンテナ貨物の74%が他県の港湾に流れている現状。広島国際フェリーポートの設置、新国際コンテナターミナルの供用により背後2時間以内の港湾物流を回復すべく、港湾費用低減、アクセス改善に努力する旨等の発表がされた。</p> <p>(3) 釜関フェリー(株)プレゼンテーション カーフェリー利用の長所、航路安定に向けて、今後の展望についてプレゼンが行われた。その中で、33年の運行実績をもとにしたサービス提供をしていくと主張。フェリーの長所説明。関係機関との今後の一層の協力を推進する旨の説明が行われた。</p> <p>－備考－ 開催日：2002年11月12日(火) 場 所：広島リーガロイヤルホテル 参加者：約100名 荷主、港湾関係者、マスコミ多数の参加を得て無事に終了。 今後の推移に注目していく。</p>

## 4. 調査広報事業

事業名	(3) 各種広報事業      b. 両国財団広報事業
事業内容	<p>日韓財団レポート（機関誌）の発行、財団パンフレットの更新、ホームページの作成等を通じて財団事業の認知とPRを図る。</p>
実施状況	<p>財団活動について従来発行していた日韓財団レポートから紙面も新たにカラーページを増やし、見やすくして発行した。</p> <p>日韓財団ホームページについて、財団の活動内容につき情報開示すると共に、基幹データを整理した。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>

## V. 日韓両財団「連絡協議会」及び「幹事会」の開催

1992年6月に日韓両国政府間で合意された「日韓貿易不均衡是正等のための具体的実践計画」の中で両国の「産業技術協力財団」が協力して業務を実施していくよう連絡協議会を設置することが定められており、その下部機関として幹事会を設け、必要により随時協議することとなっている。

### 1. 第9回の連絡協議会は下記の通り開催された。

日 時：2002年4月12日（金）

場 所：広島県 広島市 リーガロイヤルホテル

出席者：

（日本側）			（韓国側）		
委員長	藤村 正哉	理事長	委員長	金相廈	理事長
委員	瀬戸 雄三	副理事長	委員	朴容晟	理事
〃	渡里杉一郎	〃	〃	金珏中	〃
委員代理	飯島 英胤	〃	〃	金榮洙	〃
委員	秋山 富一	〃	〃	姜信浩	〃
〃	亀井 俊郎	〃	〃	李春林	〃
〃	鈴木 政志	〃	〃	趙錫來	〃
幹事	成田 洋助	専務理事	〃	朴世英	〃
			〃	玄明官	〃
			幹事	韓元碩	専務理事

朝食・意見交換

(1)日韓産業技術協力推進について

(2)その他

(なお、第10回の連絡協議会は2003年4月24日（木）韓国・大邱にて開催された。)

### 2. 第10回の連絡協議会幹事会は下記の通り開催された。

日 時：2002年11月5日（火）（終日）

場 所：東京ドームホテル

出席者：

（日本側）	代表委員	成田 洋助	日韓産業技術協力財団	専務理事
	幹事委員	宮澤 通泰	〃	事業管理部長

委員	山崎 弘	〃	常務理事・事業第二部長
〃	宮原 照夫	〃	事業第一部長
〃	山本 治男	〃	事業第一部・部長
〃	讃井 善郎	〃	事業第三部長
〃	横山 光雄	〃	事業第三部・部長
〃	須々木智行	〃	総務部長

## OBSERVER

久保田和哉	外務省	アジア局北東アジア課	研究調査員
伊集院健夫	経済産業省	通商政策局北東アジア課	課長補佐

(韓国側)	代表委員	韓 元 碩	韓日産業技術協力財団	専務理事
	幹事委員	申 栄 敏	〃	企画管理 <b>TEAM</b> ・ <b>TEAM</b> 長
	委員	許 南 整	〃	産業協力 <b>TEAM</b> ・ <b>TEAM</b> 長
	〃	金 汝 種	〃	技術協力 <b>TEAM</b> ・ <b>TEAM</b> 長
	〃	柳 奉 雨	〃	経済協力 <b>TEAM</b> ・ <b>TEAM</b> 長
	〃	宋 成 基	〃	企画管理 <b>TEAM</b> ・部長
	委員代理	金 利 源	中小企業振興公 団	国際協力 <b>TEAM</b> ・課長
	〃	李 炳 直	〃	国際協力 <b>TEAM</b> ・代理

## OBSERVER

申 德 鉉	韓日産業技術協力財団	諮問役
徐 丕	産業資源部 亞洲協力課	事務官
金 珍 旭	外交通商部 亞太通商課	事務官

事務局	趙 德 卯	韓日産業技術協力財団	企画管理 <b>TEAM</b> ・次長
〃	李 光 濟	〃	企画管理 <b>TEAM</b> ・課長
通 訳	金 哲 秀		

- 議 題：(1)2002年度事業進捗状況  
(2)2003年度事業方針説明  
(3)2003年度共同事業方針説明  
(4)その他財団運営及び事業実施上の問題点の対策協議

以 上

## VI. 事 務 局 人 事

平成14年 4月 3日 宮原 照夫 事業第一部長に就任（アサヒビール(株)より出向）  
6月17日 山崎 弘 常務理事に就任  
8月 1日 讃井 善郎 事業第三部長に就任（トヨタ(株)より出向）

以上

## VI. 財 団 日 誌 抜 粋

月 日	事 項
平成14年	
4月 3日(水)	・宮原部長（アサヒビール(株)より出向）が事業第1部長に就任、初出社。 ・日韓・韓日経済人会議結団式に成田専務理事・宮原部長・宮澤部長・須々木部長が出席。〔於：経団連会館〕
8日(月)	「産業技術交流促進ミッション」工場見学事前訪問のため、宮原部長・山本部長が広島・岡山へ出張。（11日まで）
9日(火)	「生産性向上モデル企業育成」「生産性向上短期コンサルティング」のための専門家説明会を実施。（成田専務理事・山崎部長が出席） ・金相廈理事長祝会に成田専務理事が出席。
11日(木)	第34回日韓・韓日経済人会議に出席のため、成田専務理事理事・宮澤部長・須々木部長が広島出張。（13日まで）
15日(月)	「生産性向上モデル企業育成」第1次事前調査のため、山崎部長が出張。（ソウル～全州、21日まで）
17日(水)	広島県商工労働部物流推進室・平田室長・上田主任が調査事業打合せのため来訪。（須々木部長が対応）
22日(月)	自転車振興会が監査のため来訪。（成田専務理事・須々木部長・大本主任が対応）
23日(火)	第2回審査委員会に成田専務理事・宮原部長・山本部長・山崎部長・横山部長・宮澤部長・須々木部長が出席。〔於：経団連会館〕
24日(水)	第3回北陸・韓国経済交流会議のため、成田専務理事・須々木部長が金沢へ出張。（26日まで）
25日(木)	・西日本産業貿易見本市協会の永尾専務理事・山崎理事・重岡課長（総務部営業企画課）が永尾専務理事就任挨拶のため来訪。（山崎部長が対応）
30日(火)	「産業国際競争力向上セミナー」の説明及び打合せのため、成田専務理事・横山部長がアサヒビール(株)の瀬戸会長を訪問。
5月 5日(土)	「生産性向上モデル企業育成」第2次事前調査のため、山崎部長が出張。（釜山～ソウル、11日まで）
14日(火)	山崎部長が「生産性向上モデル企業育成事業」第1社目（株DY）の専門家説明会を実施。
19日(土)	「生産性向上モデル企業育成事業」第1社目（韓国華城・株DY）前期実施開始のため山崎部長が出張。（23日まで）
20日(月)	・「産業技術交流促進ミッション」のため、山本部長・宮原部長が広島・岡山へ出張。（25日まで）

月 日	事 項
5月22日(水)	<p>成田専務理事が21日から24日まで、須々木部長が23日・24日に参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公認会計氏の板垣氏の監査。(21日までの2日間)</li> </ul> <p>「先進技術者企業研修」応募者面接のため、横山部長が韓国へ出張。(6月1日まで)</p>
6月 3日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成田専務理事が・日韓経済協会の第18回会員通常総会・平成14年度第2回理事会に出席。〔於：経団連会館〕</li> <li>・藤村会長・瀬戸副会長主催懇親会がアサヒビール(株)にて開催。</li> </ul>
4日(火)	<p>山崎部長が「生産性向上モデル企業育成事業」第2社目(斗栄電子(株))の専門家説明会を実施。</p>
6日(木)	<p>山本部長・宮原部長が第15回産業技術交流促進ミッション全体会議に出席。〔於：仙台〕</p>
9日(日)	<p>「生産性向上モデル企業育成事業」第2社目(韓国中南唐津・斗栄電子(株))前期・第1社目(韓国華城・DY(株))後期実施開始のため山崎部長が出張。(15日まで)</p>
11日(火)	<p>成田専務理事・須々木部長が打合せのため、日本貿易会の高梨氏を訪問。</p>
13日(木)	<p>「生産性向上モデル企業育成事業」の第1社目(韓国華城・DY(株))の最終報告会のため、成田専務理事が韓国に出張。(15日まで)</p>
17日(月)	<p>平成14年度第1回・第2回理事会及び第1回評議員会を開催。 〔於：経団連会館〕</p> <p>第1回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1号議案 平成13年度事業報告(案)の承認の件</li> <li>第2号議案 平成13年度収支決算報告(案)の承認の件</li> <li>第3号議案 任期満了等に伴う評議員選出承認の件</li> <li>第4号議案 寄附行為の一部変更の件</li> </ul> <p>第1回評議員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1号議案 任期満了等に伴う理事・監事選任承認の件</li> <li>第2号議案 寄附行為の一部変更の件</li> </ul> <p>第2回理事会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1号議案 理事長、副理事長、専務理事、常務理事互選(案)の件</li> </ul>
19日(水)	<p>山崎常務理事が「生産性向上モデル企業育成事業」第3社目(成鎬電子(株))の専門家説明会を実施。</p>
23日(日)	<p>「生産性向上モデル企業育成事業」第3社目(韓国ソウル・成鎬電子(株))</p>

月 日	事 項
6月25日(火)	<p>前期・第2社目（韓国忠南唐津・斗栄電子(株)）後期実施開始のため山崎常務理事が出張。（29日まで）</p> <p>「先進技術者企業研修」受入依頼のため、横山部長が出張。 〔25日：大垣精工(株)／26日：GBC（岐阜車体）研修センター・カンノ製作所／27日：北九州経済局国際経済課（池永係長・安永担当）〕</p>
7月7日(日)	<p>「生産性向上モデル企業育成事業」第4社目（韓国天安・(株)三信）前期・第3社目（韓国ソウル・成鎬電子(株)）後期実施開始のため山崎常務理事が出張。（13日まで）</p>
8日(月)	<p>宮原部長が・韓日産業・技術協力財団を訪問。 （10日に「2002年度産業国際競争力向上セミナー」に出席のため済州島に移動、13日まで）</p>
10日(水)	<p>瀬戸理事長・成田専務理事・横山部長が「2002年度産業国際競争力向上セミナー」に出席。アサヒビール本社より河野一馬氏・尹氏同行。 〔於：韓国・済州島・シルラホテル（13日まで）〕</p>
18日(木)	<p>KIT A・九州経済局他との打合せのため、宮原部長が北九州市・福岡市に出張。（19日まで）</p>
23日(火)	<p>・成田専務理事が業務報告のため、瀬戸理事長を訪問。 ・福島県企業誘致セミナーに宮原部長・山本部長が出席。 〔於：ホテルオークラ〕</p>
24日(水)	<p>「官民若手交流事業」（オピニオンリーダー）事前調査のため、須々木部長が韓国（ソウル・釜山）に出張。（27日まで）</p>
8月1日(木)	<p>讚井部長（トヨタ自動車(株)より出向）が事業第3部長に就任、初入社</p>
4日(日)	<p>「生産性向上モデル企業育成事業」第5社目（韓国釜山・三豊工業(株)）前期・第4社目（韓国天安・(株)三信）後期実施開始のため山崎常務理事が出張。（10日まで）</p>
8日(木)	<p>「生産性向上モデル企業育成事業」第4社目（韓国天安・(株)三信）の最終報告会のため、成田専務理事が韓国に出張。（10日まで）</p>
12日(月)	<p>「先進技術者企業研修」研修生入国。 開講式・歓迎会に成田専務理事・山崎常務理事・讚井部長・横山部長が出席。〔於：リプレフォーラム（江東区大島）〕</p>
18日(日)	<p>「生産性向上モデル企業育成事業」第6社目（韓国大邱・平和機工(株)）前期・第5社目（韓国釜山・三豊工業(株)）後期実施開始のため山崎常務理事・宮澤部長が出張。（24日まで）</p>
20日(火)	<p>KIT A事前説明会のため、宮原部長が韓国に出張。（23日まで）</p>

月 日	事 項
8月27日(火)	「産業技術交流促進ミッション」の事前視察のため、宮原部長・山本部長が福島県郡山市・宮城県仙台市を訪問。(30日まで)
29日(木)	九州・韓国経済交流会議に出席のため、宮澤部長が鹿児島県に出張。(31日まで)
9月 1日(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生産性向上短期コンサルティング」事前調査(韓国安山)・「生産性向上モデル企業育成事業」第6社目(韓国大邱・平和機工(株) 後期実施のため、山崎常務理事が出張。(8日まで)</li> <li>・「生産性向上モデル企業育成事業」第7社目(韓国昌原市・(株)煥雄精工) 前期実施開始のため、横山部長が出張。(5日まで)</li> </ul>
3日(火)	「官民若手交流事業」第3回日本次世代オピニオンリーダー交流訪韓団結団式挙行。派遣団員25名(団長：須々木部長、副団長：・日本在外企業協会 上田主幹・・日韓経済協会 早川部長)、財団より成田専務理事、来賓として権寧旭(韓国貿易協会・東京支部長)、権キユスプ(駐日本国大韓民国大使館・商務官補)が出席。〔於：東京ドームホテル〕
4日(水)	上記訪韓団出発。(釜山・慶州・ソウルを経て13日帰国)
9日(月)	駐日本国大韓民国大使館の改榮煥公使参事官・金星秀二等書記官が来訪。(成田専務理事・山崎常務理事が対応)
11日(水)	「産業技術交流促進ミッション」全体会議のため、宮原部長・山本部長が仙台に出張。(12日まで)
22日(日)	「生産性向上モデル企業育成事業」第8社目(韓国永川・(株)世原物産) 前期、第7社目(韓国昌原・(株)煥雄精工) 後期実施のため、山崎常務理事が出張。(28日まで)
25日(水)	「技術者専門研修」の開講式に出席のため、成田専務理事・宮原部長・宮澤部長が・北九州国際技術協力協会(KITA)に出張。(26日まで)
30日(月)	<p>「経営管理研修」第一班入国。</p> <p>成田専務理事・讚井部長・横山部長が歓迎会に出席。</p> <p>〔於：リフレフォーラム(江東区大島)〕</p>
10月 1日(火)	「経営管理研修」第1班のオリエンテーション及び講義(講師：中小企業診断士・特級機械技能士 田中義二氏) 実施。(讚井部長同席)
2日(水)	「経営管理研修」研修生が講師の田中義二氏の案内のもと、大器機械(株)・横浜金属(株)を見学。(讚井部長同行)
3日(木)	「経営管理研修」第1班の講義(講師：技術士・中小企業診断士大島将義氏) 実施。(讚井部長同席)
4日(金)	「経営管理研修」研修生が講師の田中義二氏の案内のもと、(株)吉岡精工・

月 日	事 項
10月 5日(土)	(株)湯川製作所を見学。(讃井部長同行)
	「経営管理研修」第1班の講義(講師:中小企業診断士 樋口慎治氏)実施。(讃井部長同席)
7日(月)	「経営管理研修」研修生が講師の田中義二氏の案内のもと、高周波精密(株)・トーレック(株)を見学。(讃井部長同行)
8日(火)	(株)日通総合研究所・経済研究部・港湾物流研究室の小梶幸一室長と金澤匡晃研究主事及び広島県商工労働部・産業振興総室・物流推進室の加藤健二主査と上田隆博主任が調査の中間報告のため来訪。(成田専務理事・讃井部長・横山部長が対応)
9日(水)	「生産性向上モデル企業育成事業」第8社目(韓国永川・(株)世原物産)後期実施、東和エンテック(株)(韓国釜山)訪問のため、成田専務理事・山崎常務理事が出張。(13日まで)
10日(木)	・宮澤部長が中堅経済人会議に出席。〔於:経団連会館、11日まで〕
11日(金)	・「経営管理研修」第1班の講義(講師:中小企業診断士・特級機械技能士 田中義二氏)実施。(讃井部長・横山部長同席)
11日(金)	「経営管理研修」第1班の評価会及び送別会に讃井部長・横山部長が出席。〔於:リフレフォーラム〕
14日(月)	「産業技術交流促進ミッション」受入れのため、山本部長・宮原部長が福島・仙台へ出張。(19日まで)
20日(日)	成田専務理事が15日から19日まで、須々木部長が15日・16日に参加。
20日(日)	「生産性向上モデル企業育成事業」工場診断・第1社目(韓国昌原・韓国熱処理)実施のため、山崎常務理事が出張。(26日まで)
24日(木)	「生産性向上モデル企業育成事業」工場診断・第1社目(韓国昌原・韓国熱処理)実施のため、成田専務理事が出張。(26日まで)
29日(火)	・北九州国際技術協力協会(KITA)の研修のため、宮原部長が九州に出張。(31日まで)
11月 1日(金)	「先進技術者企業研修」報告会及び送別会に成田専務理事・山崎常務理事・横山部長・讃井部長が出席。〔於:晴海客船ターミナル「ターミナルホール」〕
5日(火)	第10回連絡協議会幹事会を開催。(韓日財団との共同開催)
	※2002年度事業進捗状況
	※2003年度事業方針説明
	※2003年度共同事業方針説明

月 日	事 項
	<p>※その他 財団運営及び事業実施上の問題点の対策協議</p> <p>出席者</p> <p>(日本側) 成田専務理事、山崎常務理事、宮原部長、山本部長、讃井部長、横山部長、宮澤部長、須々木部長の他、オブザーバーとして、外務省アジア大洋州局北東アジア課久保田研究調査員、経済産業省通商政策局北東アジア課伊集院課長補佐他2名。</p> <p>(韓国側) 韓専務理事、許理事、宋部長、申チーム長、柳チーム長、金次長、オブザーバーとして、産業資源部朴課長、韓国大使館金書記官、中小企業振興公団朴所長。</p> <p>[於：東京ドームホテル]</p> <p>・「生産性向上モデル企業育成事業」コンサルティング・第1社目（韓国金堤・楸湖龍）実施のため、山崎常務理事が出張。（9日まで）</p> <p>・第3回韓日 日韓 部品・素材産業協議体合同会議を開催。成田専務理事・宮澤部長が出席。[於：東京ドームホテル]</p> <p>「両国財団シンポジウム」事業を広島市で開催。</p> <p>1 1月6日(水) 成田専務理事・讃井部長・横山部長・須々木部長が出席。 [於：リーガロイヤルホテル、13日まで]</p> <p>成田専務理事が「産業貿易会議」に出席のため、広島市から済州島に移動。</p> <p>1 2日(火)</p> <p>成田専務理事が「産業貿易会議」に出席。 [於：済州シルラホテル、15日まで]</p> <p>「生産性向上短期コンサルティング事業」実施のため、成田専務理事がソウル経由で移動。（韓国安山、24日まで）</p> <p>1 3日(水)</p> <p>「生産性向上短期コンサルティング事業」実施のため、山崎常務理事が出張。（韓国安山、24日まで）</p> <p>1 4日(木)</p> <p>・「品質管理・工業標準化研修」開講式に宮原部長・山本部長が出席。 [於：大磯プリンスホテル]</p> <p>1 6日(土)</p> <p>・「経営管理研修」第2班入国。 開講式に讃井部長・横山部長が出席。[於：リフレフォーラム]</p> <p>「経営管理研修」第2班のオリエンテーション実施。 (讃井部長・横山部長同席)</p> <p>1 7日(日)</p> <p>「経営管理研修」研修生が大器機械・横浜金属を見学。（横山部長同行）</p> <p>1 8日(月)</p> <p>・宮澤部長・讃井部長が「日中韓ビジネスフォーラム」に出席。 [於：韓国ソウル・シェラトンウォーカーヒルホテル、22日まで]</p> <p>1 9日(火)</p> <p>2 0日(水)</p> <p>2 1日(木)</p>

月 日	事 項
11月22日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「経営管理研修」第2班の講義（講師：中小企業診断士 樋口慎治氏）実施。（横山部長同席）</li> <li>「経営管理研修」研修生が吉岡精工・湯川鉄工所を見学。（横山部長同行）</li> </ul>
23日(土)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「経営管理研修」第2班の講義（講師：技術士・中小企業診断士 大島将義氏）実施。（横山部長同席）</li> </ul>
25日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「理工系大学院生 ウィンターインスティテュート」の現地説明会のため、宮原部長が韓国に出張。</li> <li>（25日・26日は大田、27日は大田から釜山に移動、28日は <b>KITA</b> 閉講式に出席のため釜山から北九州に移動）</li> </ul>
26日(火)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「経営管理研修」研修生が高周波精密(株)・トーレック(株)を見学。（横山部長同行）</li> </ul>
28日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「経営管理研修」第2班の講義（講師：中小企業診断士・特級機械技能士 田中義二氏）実施。（讃井部長・横山部長同席）</li> </ul>
29日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成田専務理事・宮原部長が (<b>KITA</b>) 閉講式に出席。</li> <li>〔於：北九州プリンスホテル〕</li> <li>・「経営管理研修」第2班の評価会及び送別会に讃井部長・横山部長が出席。〔於：リフレフォーラム〕</li> </ul>
12月 1日(日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生産性向上モデル企業育成事業」工場診断・第2社目（韓国昌原・(株) <b>MOTIONIC</b>）実施のため、横山部長が出張。（7日まで）</li> </ul>
5日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「生産性向上モデル企業育成事業」工場診断・第2社目（韓国昌原・(株) <b>MOTIONIC</b>）実施のため、成田専務理事が出張。（7日まで）</li> </ul>
6日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「品質管理研修」発表会・閉講式に山崎常務理事・宮原部長・山本部長が出席。〔於：大磯プリンスホテル〕</li> </ul>
9日(月)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第3回韓国次世代オピニオンリーダー交流訪日団」一行27名受入れ。（18日まで、須々木部長が全行程同行）</li> <li>・「第3回韓国次世代オピニオンリーダー交流訪日団」歓迎夕食会に成田専務理事出席。〔於：東京ドームホテル〕</li> </ul>
11日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第3回韓国次世代オピニオンリーダー交流訪日団」の一行が外務省・国会を表敬訪問。（成田専務理事同行）</li> <li>・「第3回韓国次世代オピニオンリーダー交流訪日団」と「第2回、3回日本次世代オピニオンリーダー交流訪韓団」との夕食交流会に成田専務理事・須々木部長が出席。〔於：東京ドームホテル〕</li> </ul>
12日(木)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「第3回韓国次世代オピニオンリーダー交流訪日団」の一行が韓国大使</li> </ul>

月 日	事 項
1 2月 13日(金)	館を表敬訪問。(成田専務理事同行)
	「第3回韓国次世代オピニオンリーダー交流訪日団」瀬戸理事長主催歓迎夕食会に成田専務理事・山崎常務理事他、部長6名出席。
1 6日(月)	「第3回韓国次世代オピニオンリーダー交流訪日団」の一行が同志社大学を訪問。(成田専務理事同行)
2 4日(火)	2003年度予算内示受け取りのため、成田専務理事が経済産業省を訪問。
2 7日(金)	仕事締め。
1月 4日(土)	「第10回理工系大学院生ウィンターインスティテュート」の受け入れとオリエンテーション実施。(宮原部長・山本部長同席)
6日(月)	・仕事始め。
	・「第10回理工系大学院生ウィンターインスティテュート」の開講式に成田専務理事・山崎常務理事・宮原部長・山本部長が出席。
	〔於：つくば研修センター（・科学技術国際交流センター(JISTEC)に委託)〕
1 9日(日)	「生産性向上モデル企業育成事業」コンサルティング・第2社目（韓国大邱・(株)YIENT）実施のため、山崎常務理事・讃井部長が出張。（25日まで）
2 1日(火)	宮原部長・山本部長が「第16回日韓産業技術交流促進ミッション」（6月1日～6日に開催予定）の全体会議に出席のため、九州に出張。（22日まで）
2 2日(水)	成田専務理事が大韓民国光州広域市の市長との昼食会に出席。 〔於：ホテルニューオータニ〕
2 3日(木)	宮澤部長が東北・韓国との経済交流会に出席のため、ソウルに出張。 〔於：ロッテホテル、25日まで〕
2 7日(月)	宮澤部長が第4回北陸・韓国経済交流会議に係わる第5回実務者検討会議に出席のため、金沢に出張。〔於：金沢都ホテル〕
2月 5日(水)	宮澤部長が日中韓ビジネスフォーラム報告会に出席。〔於：経団連会館〕
1 9日(水)	「第6回九州・韓国産業技術交流ミッション」に参加のため、宮澤部長がソウルに出張。（21日まで）
2 1日(金)	宮原部長・山本部長が「理工系大学院生ウィンターインスティテュート」の報告会、修了式及び送別会に出席。成田専務理事・山崎常務理事が修了式及び送別会に出席。〔於：ホテルグランド東雲〕
3月 5日(水)	生産性向上モデル企業育成事業専門家懇談会に成田専務理事・山崎常務

月 日	事 項
3月 6日(木)	・讃井部長が出席。〔於：東京ドームホテル〕 公認会計氏の板垣氏の監査。(7日までの2日間)
12日(水)	・韓国貿易協会・東京支部長の権所長が帰任挨拶のため来訪。 〔成田専務理事が対応、於：日韓経済協会会議室〕
25日(火)	神戸市みなと総局東京事務所の鶴飼所長が打合せのため来訪。 (成田専務理事が対応)
30日(日)	「生産性向上モデル企業育成」第1次事前調査のため、山崎常務理事・ 讃井部長が出張。(ソウル周辺、4月5日まで)
以 上	